



NO	所属	授業番号	授業テーマ(A)	授業番号	授業テーマ(B)
1	文学研究科	1111A	歴史の謎を解読せよ！古代エジプトのパピルス文書入門	1111B	文系×理系で挑む新しい歴史学:「デジタル・ヒューマニティーズ」の世界
2	文学研究科	1112A	ジェンダーステレオタイプについて考えてみよう	1112B	「男脳」「女脳」は存在するのか？
3	文学研究科	1113A	対抗宗教改革とルーベンス絵画 ―西洋美術史入門―	1113B	神話画を鑑賞しよう ―西洋美術史入門―
4	文学研究科	1114A	社会学ってどんな学問？	1114B	精神分析について
5	文学研究科	1115A	「いま」を生きたらとどういうことか？	1115B	「問い」を立てるための哲学
6	文学研究科	1116A	内容的な意味を超えてことばが伝えること	1116B	「変な」日本語、「間違っ」英語
7	文学研究科	1117A	「自分らしく生きる」とは？―ヘルクソンの哲学を手がかりに	1117B	どうすれば個人も社会も大事にできるのか？―デュルケムの思想から
8	文学研究科	1118A	キリスト教はどこで生まれたのか？―古代ローマの宗教世界	1118B	共に食べ、共に生きる―古代ローマの会食史
9	文学研究科	1119A	哲学で世界平和をつくる―カント哲学をたよりに―	1119B	そもそも学問とは何なのか？
10	文学研究科	1120A	史料を探そう、史料に出会う	1120B	「読書会」という文化―自身の参加・運営経験から―
11	文学研究科	1121A	ローマ皇帝の主張はいかに受容されたのか―『神君アウグストゥスの業績録』を例に―	1121B	ヒクソスは残虐な侵略者だったのか―歴史像の形成について考える―
12	文学研究科	1122A	古代ギリシア神話を「読む」	1122B	「愛」って何？古代ギリシア・ローマ文学に見る「愛」の姿
13	文学研究科	1123A	「あるべき家族」とは何か？：現代日本社会における近代家族の影	1123B	「鉄の女」の時代：イギリスにおける新自由主義の実践
14	文学研究科	1124A	「移民問題」はどうとらえられるのか？―フランスから考える―	1124B	ミュージアムは社会を変えられるか―ウトロ平和祈念館の現場から考える―
15	文学研究科	1125A	江戸時代の人々はなぜ「収集沼」にハマったのか？―コレクション文化の歴史地理学―	1125B	どうやって地図は世の中に広まったのか？―江戸時代の地図史入門―
16	教育学研究科	1226A	世界の「大学入試」～比較教育学からみる日本の特徴～	1226B	似て非なる国、韓国の教育と社会～外国を研究するということ～
17	教育学研究科	1227A	友情を哲学する～友人って誰？友情って何？～	1227B	グローバル時代の倫理入門～世界市民主義とは何か～
18	法学研究科	1328A	自由民主主義とは何か	1328B	インターネットと政治
19	経済学研究科	1429A	データで読み解くわたしたちの生活 ～相関関係？因果関係？～	1429B	行動経済学で読み解くわたしたちの生活 ～身近な生活に潜む経済学～
20	経済学研究科	1430A	経済学者の知りたいこと―経済発展のメカニズム	1430B	批判されるビジネス
21	経済学研究科	1431A	再生可能エネルギーと地域経済	1431B	環境にやさしいってみんなにやさしい？
22	理学研究科	1532A	非対称の科学と生命の起源―なぜ自然界は「鏡合わせ」を拒んだのか？―	1532B	身近な物質の見えない秩序
23	理学研究科	1533A	植物たちはどう生きるか？	1533B	植物を合体させる！？接木の魅力を迫ろう！
24	理学研究科	1534A	1層の分子で支える次世代の太陽電池	1534B	分子とともに舞う：機能性有機分子が紡ぐ多様な世界
25	理学研究科	1535A	化学で挑むエネルギー問題～次世代太陽電池の実用化に向けた研究～	1535B	実用化を目指すペロブスカイト太陽電池の研究
26	理学研究科	1536A	北海道のシャチには全然違う2タイプがいる！	1536B	海に行ったら会えるかな？海の哺乳類！～興味を持ったらいつでも飛び込もう～
27	理学研究科	1537A	サルの麻酔のおはなし	1537B	動物園の「どうぶつのお医者さん」と研究
28	理学研究科	1538A	「原子を見る目」で難病に挑む！クライオ電子顕微鏡法の挑戦	1538B	理学と社会がつながるとき～抗体医薬品の開発現場から～
29	理学研究科	1539A	植物学入門～理学と農学の植物研究の違いとは？～	1539B	植物学の研究とは？～実際の研究を覗き見しよう～
30	理学研究科	1540A	ミクロな世界の「回転」の科学―HDDからダイヤモンド磁気センサまで―	1540B	高輝度X線が照らすナノの世界―Spring-8ってどんな施設？
31	理学研究科	1541A	日常を飛び出すサイエンス：冷やすだけで世界が変わる「超伝導」の世界	1541B	磁石の不思議から量子の世界へ：超低温で見る物質のひみつ
32	医学研究科	1642A	在宅医療とは？そこで見落とされていた落とし穴とは？～訪問看護と取り組んだ研究～	1642B	令和のキャリアパスの考え方～様々な進学の可能性とは～
33	医学研究科	1643A	次世代iPS細胞を用いた難病解明への挑戦	1643B	「医者じゃなくても医療に関われる！」～臨床検査技師×iPS細胞の現場より～
34	医学研究科	1644A	iPS細胞による創薬と再生医療	1644B	ゲーム編集×iPS細胞 何ができる？
35	工学研究科	1845A	生命を育む惑星の条件：データで解き明かす地球の奇跡	1845B	地球化学の世界地図：化学の目で見る自然の摂理
36	工学研究科	1846A	なぜ今、江戸時代の治水がアツいのか？	1846B	川の地形を読んでみよう
37	工学研究科	1847A	「良い」街づくりって何だろう？～都市・土木計画の視点から～	1847B	数字って、本当に万能？～数字では測れない街づくり～
38	工学研究科	1848A	氷床の重みで地球が凹む！？～実際に掘って確かめてみた～	1848B	断層をデジタル空間で再現した地震メカニズムの解明に挑む！
39	工学研究科	1849A	働きながら博士として学ぶ：社会人博士が考える川とまちの未来	1849B	日本と海外から考える「河川のポテンシャルと水辺での暮らし」
40	工学研究科	1850A	都市はなぜ水に弱い？氾濫のしくみを解く	1850B	都市の洪水を予測する：シミュレーションの役割
41	工学研究科	1851A	災害は「自然」だけで起きるのか？～社会と制度から考える防災～	1851B	防災におけるコミュニケーションの重要性～世界の政策から私たちの日常へ～
42	工学研究科	1852A	地震じゃないのに津波が来た！？～トンガ火山噴火と「気圧波」の正体～	1852B	静かな海に突然の津波！？～気圧の変動がつくる「もう一つの津波」～
43	工学研究科	1853A	周囲の自然保護区から産業開発まで	1853B	代替資源としての植物抽出
44	農学研究科	1954A	ゲーム編集で解き明かす「地球最強の動物」	1954B	20年後の生物学とは？～ゲノム科学で生物進化を操る時代へ～
45	農学研究科	1955A	酵素工学の研究で、国境を超える	1955B	「酵素の力」で、人々の健康を測る、守る一次世代ヘルスケアへの挑戦
46	農学研究科	1956A	世界がもっと鮮やかに見える小さな生き物のななし～地衣類学入門～	1956B	図鑑ってなに？～もっと散歩が楽しくなるフィールドワークの話～
47	農学研究科	1957A	カニ殻はただのゴミじゃない！未来を変える「キチン」の正体	1957B	「磁石で材料をあやつる！？」脱プラスチック時代の新素材
48	農学研究科	1958A	熱帯林でのフィールドワーク入門：なぜ研究者は熱帯林に魅了されるのか？	1958B	熱帯雨林の植物多様性の謎：なぜ同じ場所に、違う植物がこんなに生えるの？
49	人間・環境学研究科	2059A	日本語と英語から世界の言語をのぞく―言語類型論入門	2059B	「魅せる」ことば・オノマトペの魅力
50	人間・環境学研究科	2060A	私は100年前の「高校生」と仲良くなれるだろうか？ポロポロの学ランに学ぶ教育史	2060B	100年前の「高校」はどんな様子？ポロポロの学ランから探る100年前の学生文化
51	人間・環境学研究科	2061A	「共学」って当たり前？―学校制度の歴史と多様性を考える	2061B	「働く・働かない」は自由なのか？―女性のしごとと社会のしくみ
52	人間・環境学研究科	2062A	動物園における種の保存の取り組み：国内の絶滅危惧種「ツシヤママネコ」を事例に	2062B	絶滅危惧種の保全とは何か：対馬における「ツシヤママネコ」の保全を事例に考える
53	人間・環境学研究科	2063A	言語学とは？	2063B	生成文法について
54	人間・環境学研究科	2064A	河川敷に暮らす―流域治水を「堤外地集落」から考える―	2064B	地形図からはじめる地理学―身近な地域を「読む」―
55	人間・環境学研究科	2065A	どうして空き家はなくなるしないの？	2065B	空き家はどこからきてどこへ行くのか
56	人間・環境学研究科	2066A	見えない「こころ」を科学する	2066B	脳から「こころ」は見えるのか？
57	人間・環境学研究科	2067A	「スラム」は本当になくすべき場所なのか？	2067B	一皿のごはんから考えるアジアの都市
58	人間・環境学研究科	2068A	なぜここに集まるのか？―「通学」からみえる、都市のすがた―	2068B	集う都市、つながる都市―近代からたどる、都市への移動―
59	人間・環境学研究科	2069A	古文書と地図から江戸時代の庶民を追跡する	2069B	江戸時代の京都へ買い物に行こう
60	人間・環境学研究科	2070A	「みかん」が驚いた人と町…？―日本から済州島に渡った「みかん」とその前後―	2070B	「焼肉」の研究―一町の中から考える人びとの交流と繋がり―
61	人間・環境学研究科	2071A	心理学の研究法―質問紙の開発過程～	2071B	人に自由意志はあるのか？～Libetの実験より～
62	エネルギー科学研究科	2172A	木から石油を作る？―木質バイオマス変換の最前線―	2172B	なぜカーボンニュートラルは難しいのか？―エネルギー科学から考える脱炭素―
63	エネルギー科学研究科	2173A	水から水素をつくる化学～水素社会を支える電気化学～	2173B	フッ素と電気化学～エネルギーと材料を支える化学～
64	エネルギー科学研究科	2174A	病気を防ぐ「小さな分子」の設計	2174B	がんを防ぐ薬はどう作られるのか
65	アジア・アフリカ地域研究科	2275A	「幸せの国」ブータンで考える農村の未来	2275B	ブータンの小さな村で「教育」を考える
66	アジア・アフリカ地域研究科	2276A	コーヒーでつながる世界：タイ北部の少数民族	2276B	日常と非日常のはざまを生きる：観光と嗜好品
67	アジア・アフリカ地域研究科	2277A	民族はどのようにつくられる？―マレーシアから考える	2277B	海を越えた商人たちを追いかけた―交易と移動の歴史から現代を考える
68	情報学研究科	2378A	「見える」ことの神秘	2378B	高校では学ばない「心理学」に触れる
69	情報学研究科	2379A	小さな変化から回復の手がかりを探す	2379B	体の電気信号をデータで読む
70	生命科学研究科	2480A	最先端顕微鏡で見る！ウイルスの形と生き残り戦略	2480B	「見切り発車」から始まる、ゆるい進路選択
71	生命科学研究科	2481A	免疫をハックしろ！―次世代バイオ医薬の最前線―	2481B	タンパク質をデザインしろ！―分子設計が切り拓く未来―
72	生命科学研究科	2482A	大学院生の研究を体験！がんの新しい治療法を創ろう	2482B	がんは淘汰する時代へ―最先端のがん治療法の裏側！
73	地球環境学舎	2683A	日本の山は草だらけだった！？有機農法と山の関係	2683B	馬(ウマ)が活躍する農林業―お馬さんがSDGsと地球環境問題に貢献！？―
74	経営管理大学院	2784A	経営科学における因果推論：計量経済学から機械学習まで	2784B	社会人大学院生とは何か？
75	経営管理大学院	2785A	データサイエンスで創る未来の社会インフラ	2785B	アントレプレナーシップ入門～ビジネスモデル創造～
76	生圏研究所	3386A	植物が有用成分をつくるしくみ～基礎から応用まで～	3386B	薬と毒はなにが違う？～生物が作りだす多様な物質に迫る～
77	東南アジア地域研究研究所	3987A	ごはんの食べ方で文化がわかる？―ウイグルの暮らしをのぞいてみよう	3987B	放したヒツジはなぜ帰ってくるの？―パキスタン山岳地帯に学ぶ、人と動物の関係―

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全 154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1111A 文学研究科	歴史の謎を解読せよ!古代エジプトのパピルス文書入門 ピラミッドやスフィンクスだけが古代エジプトではありません。砂漠から発掘された大量の「パピルス（古代の紙）」には、当時の社会のありのままの姿が記録されています。興味深いことに、古代エジプトに関するパピルスの多くは、当時の国際語であった古代ギリシア語で書かれています。これらを読み解くことで、行政の仕組みや税金の記録、村の組合のルールなど、社会がどのように回っていたのかが鮮明に浮かび上がってきます。今回の授業では、皆さんに少しでも「歴史研究者」になってもらいます。実際のパピルスの画像を見ながら、古代の文字がどのように書かれ、そこからどのようにして2000年以上前の人々の生活や社会のシステムを復元していくのか、その過程をご紹介します。	× 10月以降の毎週金曜
1111B 文学研究科	文系×理系で挑む新しい歴史学:「デジタル・ヒューマニティーズ」の世界 高校では「文系」「理系」と進路が分かれませんが、大学の最先端の研究現場では、その境界線がなくなりつつあります。歴史学をはじめとする人文学の分野でも、「デジタル・ヒューマニティーズ」と呼ばれる新しい波が押し寄せています。プログラミングを用いて古代のテキストから情報を抽出したり、オンラインデータベースを構築したり、AIと画像処理を駆使してこれまで読めなかった文字を判読したりと、理系の技術を駆使して「人間の歴史」という文系の謎に挑むアプローチです。今回の授業では、歴史学のイメージを覆すようなデジタル技術の活用事例を紹介し、これからの時代における新しい「学びのカタチ」を皆さんと一緒に考えたいと思います。	特になし
1112A 文学研究科	ジェンダースtereotypeについて考えてみよう ジェンダースtereotypeとは、人々が女性や男性に対して抱いている、性格特性や能力、役割に関する固定的信念や思い込みのことを指します。「女性は文系科目、男性は理系科目が得意」などがその好例です。これまで心理学では、男性と女性の差異について、ジェンダースtereotypeの観点から数多くの研究が行われてきました。そして、近年、子どももジェンダースtereotypeを形成している可能性が示唆されています。本授業では、成人や子どもを対象にした、国内外のジェンダースtereotypeの研究について紹介します。紹介する研究の内容は、もしかしたらみなさんの感覚とは異なるところもあるかもしれませんが、この点も含めて高校生のみならずと議論できると嬉しいです。	特になし
1112B 文学研究科	「男脳」「女脳」は存在するのか? 「男性は火星、女性は金星からやってきた」という言葉があります。これは、男女は異なる星からやってきたぐらい思考・感情パターンが異なっているということを表した言葉です。たしかに「男性は地図を読むのが上手」「女性はおしゃべりで感情表現が豊か」など、男女で性格や得意なこと、好きなことが異なるのかもしれませんが、では、「男脳」「女脳」のようなものがあり、このような男女差は生まれつきのものであるということでしょうか？それとも育ちや社会・文化の影響によるものなのでしょうか？本授業では、この疑問を出発点に、発達心理学の研究や霊長類の比較研究を紹介しながら、男女差の「神話」と「実態」について科学的な視点から考えていきたいと思います。	特になし
1113A 文学研究科	対抗宗教改革とルーベンス絵画 —西洋美術史入門— 宗教改革期には、神を絵画や彫刻で表すことが、キリスト教で本来禁じられている偶像崇拝に当たるのではないかという問題が激しい議論的になりました。議論の結果、カトリック教会では、聖書に忠実な「適切」な画像であれば、問題ないとされましたが、次は「適切」の基準が問題になりました。童話『フランダースの犬』で、主人公が最期に見た《十字架降架》という祭壇画を描いた画家ルーベンスは、カトリック教会のために様々な祭壇画を描きました。彼の、神や聖人を大胆に描いた作品の数々は、まさに教会によって「適切さ」の判断を受けた興味深い例といえます。授業では、これらの事例を美しい作品を鑑賞しながら検討し、宗教と美術についての理解を深めましょう。	× 8月24日～11月7日
1113B 文学研究科	神話画を鑑賞しよう —西洋美術史入門— 皆さんは古代ギリシア・ローマ神話をご存じでしょうか。ゲームやファンタジー等で、ゼウスやアポロンといった名前を耳にしたことがあるかもしれません。近世ヨーロッパ世界において、ギリシア・ローマ神話は美術の題材として人気を博しました。神々がそれぞれ司る、戦争や平和、豊穡、飲酒といった様々な概念を組み合わせることで、同時代の国際情勢や、為政者の治世といった複雑な物語を表現することが可能だったのです。画家ルーベンスは八十年戦争の際、南ネーデルラント地域の外交官として、平和実現に向けて奔走しました。授業では、この動乱を背景にルーベンスが描いた神話画に着目し、当時の複雑なヨーロッパ情勢に照らしながら、詳細に鑑賞してみよう。	特になし
1114A 文学研究科	社会学ってどんな学問? 私は、現在は、マックス・ヴェーバーという社会学者の理論と方法論の研究を続けています。皆さんは社会学について、どんなイメージを抱いているでしょうか？私たちが今暮らしている社会、なんとなくイメージは出来るけれど、実際はどうしたものか「社会」というのか。この授業では、「社会」が具体的にどのようなのかを、マックス・ヴェーバーの社会学理論に基づいて、わかりやすく説明します。そして、高校までの勉強と大学からの研究との相違を示しながら、大学進学の際に、皆さんの一助となるようなお話をしたいと思っています。	特になし
1114B 文学研究科	精神分析について 私は、社会学を専攻する以前に精神分析を研究していました。将来的には、精神分析を取り入れた社会学の方法論を発見するつもりです。この授業では、S・フロイトとJ・ラカンの精神分析を、身近な例を用いながら、わかりやすく紹介します。そして、高校までの勉強と大学からの研究との相違を示しながら、大学進学の際に、皆さんの一助となるようなお話をしたいと思っています。	特になし
1115A 文学研究科	「いま」を生きるとはどういうことか? 「いま何時?」、「いますぐやります!」、「いま忙しいんだよね」など、「いま」とは日頃よく聞く言葉です。ですが「いま」とはなんなのでしょうか？この短い問いについて、哲学者達は様々な考え方を示しました。そのような哲学者達の思考を参考にしつつ、「いま」について考えてみましょう。また、「いまが大切なんだ」ということもしばしば耳にします。「いま」はなぜ大切なのでしょう？難解な言葉や概念は必要ありません。私達にとって最も身近な「いま」から哲学を始めてみましょう。そしてそこから、「いま」を生きるとはどういうことか考えてみましょう。	特になし
1115B 文学研究科	「問い」を立てるための哲学 探究とは「問い」から始まります。ある物事に対して「なぜ?」と問うことが、あらゆる学問の出発点です。化学や物理学、心理学などの様々な学問は哲学から生まれてきましたが、哲学という営みもまた、二千年を超える歴史の中で常にどこかを問い続けてきました。では「問い」とはなんなのでしょうか？また、「問い」はどこから出てくるのでしょうか？ある哲学者は「問い」の始まりは「驚き」だと言います。これらのことについて、九鬼周造という日本人哲学者の思索を手がかりにしながら考えてみましょう。	特になし
1116A 文学研究科	内容的な意味を超えてことばが伝えること 「おやじか」「あらか」「わたしか」「うちか」、「バイト先か」「バ先か」、「食べられるか」「食べれるか」、「かもしれないか」「かもわからないか」。わたしたちは日常的に、こうしたことばの違いから話し手がどのような人物か—その人の年齢、性別、出身、キャラまでをも—無意識に読み取っています。この授業では、同じもの、ことを言い表すいくつかのことばの形式が存在するとき、その形式がそれ自体の内容的な意味だけでなく、しばしば社会的な意味をも伝達することに目を向けます。日本語と英語の具体例をもとに、ことばと人物像の結びつきについて一緒に考えます。	× 9月17～19日 × 10月以降の毎週木・金
1116B 文学研究科	「変な」日本語、「間違っ」英語 「全然おいしい」や「するくない?」といった日本語が「変だ」と議論されるのを、一度は見聞きしたことがあるのではないのでしょうか。“I been lived here”や“the turtles don't walk very fast”といった英語は、授業では「間違い」として習ってきたかもしれませんが、実は、こうした「ことばの乱れ」は必ずしも単なる誤用にとどまりません。この授業では、「正しい/間違い」「良い/悪い」という見方だけでは捉えきれないことばの多様性に注目します。日本語と英語の具体例をもとに、非標準的なことばに見られる一定のパターンについて、一緒に考えます。	特になし

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1117A 文学研究科	「自分らしく生きる」とは？——ベルクソンの哲学を手がかりに 「自分らしさ」という、あなたは何を思い浮かべますか。他の誰も持っていない、自分だけの「独自のもの」とはなんですか。こうしたことを考えるために手がかりとなるのが、フランスの哲学者アンリ・ベルクソンの思索です。ベルクソンは私たちの心のなかで起こっていることを注意深く観察することで、「自分らしさ」と「時間」が深く関わっていることに気づきました。一人ひとり、どんな人のなかにも流れている時間、しかも、その人にしか生きることのできない時間——そんな時間を生きることが「自由」なのだと言います。この授業では、「自分らしさとしての時間」について、皆さんといっしょに考えていきたいと思います。	× 10月以降の 毎週火・水・木・金
1117B 文学研究科	どうすれば個人も社会も大事にできるのか？——デュルケムの思想から あなたは、社会と個人のどちらが大事だと思いますか？「社会のためには個人は我慢しない」と言われると、どうしても窮屈な感じがするし、だからといって「社会と関わらずに、ひとりで生きていきます」というのも、現にある人びとのつながりを無理やり無視しているように見えます。「社会と個人の関係をどう捉えるか」という問題は、さまざまな思想家たちが格闘してきた大きなテーマですが、この授業ではフランスの社会学者、エミール・デュルケムの「人格」論からアプローチします。「一人ひとりを大事にすることが、結局は社会のためになる」というデュルケムの主張が、どのように成立しているのかということを考えていきます。	
1118A 文学研究科	キリスト教はどこで生まれたのか？—古代ローマの宗教世界 ローマ帝国は、ユピテルやミネルヴァなどローマ神話の神々への崇拜に加え、皇帝崇拜や密儀宗教といった多様な信仰が並び立つ、宗教的にきわめて多様な世界でした。そのような環境の中で、キリスト教はどのように、そしてなぜ普及していったのでしょうか。本授業では、キリスト教の誕生と拡大の背景にあった古代ローマの宗教世界に焦点を当て、異なる宗教が共存する社会のあり方を考えます。その上で、ローマ社会という文脈の中に初期キリスト教を位置づけ、新たな宗教が生まれる背景について検討していきます。	× 毎週金曜 × 9月12日 × 9月19～27日 × 10月13日 × 11月3日
1118B 文学研究科	共に食べ、共に生きる—古代ローマの会食史 古代ローマの社会において、「共に食べる」とは単なる日常的な行為ではなく、宗教や共同体のあり方と深く結びついていました。人々はなぜ集い、食事をともにしたのでしょうか。本授業では、供儀に伴う宗教儀礼としての会食や、富裕者が宴を提供する恩恵施与、さらに葬儀組合などの互助組織における紐帯強化の実践としての会食を紹介します。そして、こうした実践が初期キリスト教共同体においても重要な役割を果たし、その拡大の過程にどのように関わったのかを検討します。さらに、食事のような日常的な行為や、それに伴う人々の感覚や感情に注目することで、歴史をいかに捉え直すことができるのかについても考えていきます。	
1119A 文学研究科	哲学で世界平和をつくる——カント哲学をたよりに—— 昨年「戦争」という事態がわきわきと身近になってきましたね。もちろん昔から世界中で「戦争」はありましたが、昨今の不安定な世界情勢によって、この「戦争」という考えが新たな事態に注目が集まっています。では、この「戦争」を抑制し、また未然に防ぐために、私たちに何ができるのでしょうか？「戦争」を予防する試みについては、すでに様々な取り組みがあります。企業やNGOや市民団体による活動や、外交などの国家による政策、国連などにおける国家間の交渉、等々、これらについては、みなさんも耳にしたことがあるでしょう。でも、実はこれ以外に「哲学」という学問でもできることがあります。本授業は、ドイツの哲学者カントをたよりに、このことについて考えます。	× 11月23～30日
1119B 文学研究科	そもそも学問とは何なのか？ 「なぜ勉強しなくちゃいけないの？」大人が一度は聞かれるこの問い。「良い大学・良い会社に入るため」「選択肢を広げるため」といった現実的な答えのさらに一歩先へ、正面から向き合ってみませんか？本授業では、この問いを解き明かすヒントとして、「そもそも『学問』とは何なのか？」を哲学の視点から考えます。哲学だからといって身構える必要はありません。実は、大学院の博士号は「Ph.D」と呼ばれますが、この「Ph」は「Philosophy」の略です。つまり、元々はあらゆる学問はすべて哲学というわけです。本授業では、哲学者たちによる学問の定義や目的をご紹介しますことで、日頃の勉強の枠を超え、学ぶことの真の面白さを伝えることができたらと思います。	
1120A 文学研究科	史料を探し、史料に出会う 歴史研究にとって、過去を考えるための情報源となる、同時代人によって残された何らかの記録は必須です。それを我々は「史料」と呼びます。大学で歴史を専攻する人は、どの地域や時代へ注目するにしても、教科書や概説書の内容を暗記するのではなく、最終的には卒業論文でいくつもの「史料」を用い、自分なりの見解を表現しなければなりません。しかし、何が「史料」として認められるのでしょうか。どうやって研究に役立つ「史料」を探すのでしょうか。そして、どうやって適切な「史料」に出会うのでしょうか。意外なところから「史料」が舞い込んできて、「史料」ありきで研究が始まることもあります。私自身の経験に基づきながら、この問題について議論したいと思います。	× 8月24日～9月11日 × 月・水・木・金 (すべて応相談)
1120B 文学研究科	「読書会」という文化—自身の参加・運営経験から— 大学での学習機会は、教室での授業を通じてのみ得られるわけではありません。比較的熱心な学生や教員たちのあいだでは、授業の課程や単位とは関係のない、自主的な勉強の場が設けられています。それが、俗に「読書会」（ないし「勉強会」や「講読会」）と呼ばれる会合です。私は進学以来、多くの「読書会」に参加したり、それを運営したりしてきましたが、形態や内実は様々です。また、こうした会は単なる研鑽の機会ではなく、個人間の親睦を深める場としても機能してきました。この授業では、自身の経験をもとに、それぞれの会を目的・形式・分野などによって類別し、大学内外で営まれるこの種の会の面白さと難しさを提示します。	
1121A 文学研究科	ローマ皇帝の主張はいかに受容されたのか —『神君アウグストゥスの業績録』を例に— 皇帝という国家の絶対的な権力者のようなイメージを持たれるかもしれませんが、それでは、ローマ皇帝の主張は皇帝の生前であっても死後であっても絶対的に正しいものだったのでしょうか。本授業では、初代ローマ皇帝アウグストゥスが書き残した『神君アウグストゥスの業績録』という史料がどのように読まれたのかを見ていくことで、この問題について考えてみたいと思います。皇帝とは当時の人々にとってどのような存在だったのでしょうか。普段の歴史の勉強ではなかなかみえてこない側面に触れることで、歴史を深く知るための面白さや提供したいと思っています。また、史料の扱い方や史料どうしの関係について学び、学問としての歴史についても知ってもらいたいと思います。	× 毎週金曜日 × 10月29日 × 11月5日
1121B 文学研究科	ヒクソスは残虐な侵略者だったのか—歴史像の形成について考える— ヒクソスという異民族が中王国時代にエジプトに侵入し、エジプトを蹂躪したことで、エジプトは（第2）中間期と呼ばれる混乱期に突入し、そのヒクソスを追放したことで新王国時代という安定期に移行したとしばしば説明されてきました。しかし、新王国時代のファラオの1人ラムセス2世は、ヒクソスに親和的な態度を見せています。いったいこれはどういうことなのでしょう。本授業では、史料がいつのものなのかということを確認しながら、エジプトを蹂躪した残虐なヒクソスという歴史像が形成された背景について考えていきます。これによって、史料の扱い方や歴史像のつくり方一端を知り、歴史学の面白さや歴史を学ぶ意義について考えるきっかけを提供したいと思います。	
1122A 文学研究科	古代ギリシア神話を「読む」 「ギリシア神話」という言葉は多くの人がどこかで耳にしたことがあるはずです。ゼウスの雷、ヘガサスの翼、あるいは英雄ヘラクレスの冒険。近年では、アニメやゲームの中でおなじみのネタとして登場しています。でも実は、「ギリシア神話」という名前の本が一冊ほんとはありません。神話の物語は、古代ギリシアのさまざまな作家たちが詩や劇の形で語り継いだもので、その描かれ方も作者やジャンルによって大きく異なります。英雄たちが活躍する叙事詩もあれば、神々の失敗を皮肉るものまで、神話はじつに多彩です。この授業では文学作品のなかで、神話がどのように表象され、利用されてきたのかをみていきましょう。	× 9月30日 × 10月7・14・21・28日 × 11月4・11・25日 × 12月2・9・16日
1122B 文学研究科	「愛」って何？古代ギリシア・ローマ文学に見る「愛」の姿 「愛」って何？「愛」はひどく陳腐な問いかもしれません。今さら「愛」について語るなんて！でも、「愛」はどの時代、どの地域においても普遍的、そして極めて重要なテーマであり続けています。そして一口に「愛」といっても異性愛、同性愛、家族愛、故郷への愛、友愛、などなど色々なものがあります。この授業では古代ギリシア・ローマという現代日本から遠く離れた世界において、「愛」がどのような姿をしていたのかを、文学作品から見ていきたいと思います。現代日本と遠く離れた世界において「愛」のあり方は違っていたのでしょうか？あるいは変わらないものだったのでしょうか？	

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1123A 文学研究科	「あるべき家族」とは何か？：現代日本社会における近代家族の影 「家族」と聞いてみなさんはどんなものを思い浮かべますか？『クレヨンしんちゃん』の野原家か、それとも『サザエさん』の磯野家か。しかし、そもそも我々の想像する家族は普遍的なものなのでしょうか？1970年代以降、歴史学界では家族の歴史性についての研究が熱心になされてきました。本授業はこうした家族史研究の成果を踏まえつつ、現代日本における家族イメージを切り口に、「家族」が歴史的に構築されてきた過程に迫りたいと思います。授業後には、自分たちがいかに「歴史的構築物としての家族」に縛られ続けているのか気づくことになるでしょう。また、現代社会を批判的に捉え、それを相対化するという「歴史学的な営み」に触れていただければ幸いです。	× 毎週金曜（応相談）
1123B 文学研究科	「鉄の女」の時代：イギリスにおける新自由主義の実践 「鉄の女」マーガレット・サッチャー。みなさんも彼女の名前を一度は耳にしたことがあるかもしれません。イギリス初の女性首相である彼女は、「新自由主義」という経済思想を先進国で初めて本格的に実践した人物として知られており、彼女による導入を皮切りに、日本を含む多くの国が新自由主義を導入するに至りました。本授業では、サッチャーが首相を務めた1980年代のイギリス社会に注目し、同政権の行った新自由主義的諸改革について考察します。また、当時を生きた人々の実際の「声」を取り上げることで、ミクロな視点から社会の実相に迫りたいと思います。本授業が、Brexitを経験したイギリスの現状に加え、日本社会をも見つめ直すきっかけとなれば幸いです。	特になし
1124A 文学研究科	「移民問題」はどうつくられるのか？—フランスから考える— スペイン、ベトナム、アルジェリア…様々な国や地域からやって来た人たちが成る「移民国家」フランスにおいて、移民の存在は、しばしば負のイメージと結び付けられ、「問題」として語られてきました。大統領も務めた政治家のニコラ・サルコジが、郊外に生活する移民ルーツの若者たちを指して、「社会のクズを一掃する」と発言したのがその代表例です。では、そもそも、移民の何が「問題」とされてきたのでしょうか？それらは本当に「問題」なのでしょうか？近代から現在まで、どのような移民集団が「問題」視されてきたのでしょうか？本授業では、フランスの様々な具体的な事例を手掛かりに、最終的には、今の日本社会の状況に目を向ける形で問いをひいてゆくことを目指しています。	特になし
1124B 文学研究科	ミュージアムは社会を変えられるか—ウトロ平和祈念館の現場から考える— ウトロ平和祈念館は、2022年に京都府宇治市に開館した歴史ミュージアムです。祈念館では、地域に暮らしてきた在日コリアンの人々を中心に、差別や困難に直面しながら、ウトロを守り抜いてきた人たちの経験を伝え、人権や平和の大切さについて発信を続けています。この授業では、祈念館の教育普及活動に携わってきた立場から、私自身の実体験や、来館者やスタッフ・ボランティアの声をもとに、開館からわずか数年で、ウトロでの様々な取り組みがどのように広がり、どのようにしてより多くの人たちを巻き込んできたのか、そして、そこからどんな可能性が見えてきたのかをお話します。よりよい社会をつくるために、ミュージアムの現場から何ができるのか、改めて考える授業にします。	特になし
1125A 文学研究科	江戸時代の人々はなぜ「収集沼」にハマったのか？—コレクション文化の歴史地理学— コレクションは、モノを集めて世界を捉えようとする文化的営みです。江戸時代には、平賀源内（1728-1780）や塙保己一（1746-1821）や堀江（1758-1829）などがさまざまな「モノ」（書物や標本、考古遺物、古地図、器具）を収集し、知識の獲得や情報の整理に活用していました。こうした動きは個人のみにとどまらず、同じ興味や関心を抱く人々同士のネットワークが生まれ、やがて全国規模にまで波及しました。本授業では、収集された「モノ」に加えて、その行為を担った人物や、サロンや物産会を含む場所にも着目し、「収集沼」という大きな潮流の歴史を紹介します。さらに、標本や目録、図譜を用いて、コレクション文化の実態や魅力に迫ります。	× 毎週水曜
1125B 文学研究科	どうやって地図は世の中に広まったのか？—江戸時代の地図史入門— みなさんは、社会科の授業やテレビ番組などを通じて、無意識のうちに過去に作成された地図にふれています。江戸時代には、地図は世界や地域を理解し、知識を伝えるための重要なメディアでした。しかし、それらは版元による出版だけでなく、寺社での頒布や人々同士のやり取りによっても広まってきました。一方で、伊能忠敬（1745-1818）の「大日本沿海輿地全図」のように、機密性の高い地図は幕府や藩といった限られた人々の間で共有されていました。本授業では、世界図や日本図、都市図などを取り上げながら、江戸時代における地図の流通や管理、利用のあり方を紹介します。さらに、実際の古地図を用いて、その読み方や面白さを体験します。	× 毎週水曜
1226A 教育学研究科	世界の「大学入試」～比較教育学からみる日本の特徴～ 世界の国々ではどのような「大学入試」が行われているのでしょうか？政治の制度が世界共通ではないのと同様に、教育に関する制度も国によって異なります。タイトルで「大学入試」をカギ括弧でくくっているのも、教育制度の違いと関係があります。本授業では、さまざまな国の「大学入試」について紹介し、そうした「大学入試」が行われている社会的・制度的背景を概説します。日本との共通点や相違点を意識しながらさまざまな「大学入試」のカチを比較していくと、日本の「大学入試」の特徴が見えてきます。本授業を通して皆さんのうち多くの人がこれから経験するであろう「大学入試」について、一緒に考えてみませんか？	× 9月25日 × 9月28日 × 10月2日～11月20日の 毎週金曜 × 11月18日 × 11月24～25日 × 12月の毎週月曜
1226B 教育学研究科	似て非なる国、韓国の教育と社会～外国を研究するということ～ みなさんは隣国の韓国のことをどのくらい知っていますか？韓国は一見すると日本とよく似た国に思えますが、実は異なっている点も多くあります。教育もその一例です。韓国の子どもたちはどのような教育を受けるのでしょうか？そのような教育が行われる背景には、韓国社会のどのような特徴が表れているのでしょうか？韓国は、日本と近似した教育制度を有しながら頻りに教育改革を行っており、日本の教育を考える上でも参考になります。本授業では、韓国の教育について学びながら、そこから垣間見える韓国社会の特徴について考えてみます。そして、韓国のことを手がかりにしつつ、日本の教育や社会についても考えてみましょう。外国を研究することの魅力についても共有できればと思います。	× 毎週水・木 × 8月24日～9月30日
1227A 教育学研究科	友情を哲学する～友人って誰？友情って何？～ 私たちは日々、友人に悩み、救われ、背中を押されて生きています。しかし「本当の友人とは誰か」と聞かれると、答えるのは意外に難しいものです。本授業では、誰もが悩む身近な「友情」をテーマに、哲学の視点からアプローチします。過去の思想家たちが友情をどのように捉えたのかを紐解き、友人とは誰であるのかを問い直します。また本授業では、友情の研究が実際にどのように社会と関わっているかを示すことで、日常的なものを学問することの奥深さを知ってみたいと思います。	× 毎週水・木 × 8月24日～9月30日
1227B 教育学研究科	グローバル時代の倫理入門～世界市民主義とは何か～ 国家や民族の枠組みを越え、すべての人間を等しく世界の一員と見なす思想、それが「世界市民主義（コスモポリタニズム）」です。しかし現実には、遠い国の貧困や戦争に対して私たちは「誰をどこまで助けるべきなのか」という、無視できないジレンマが存在します。身近な地域や国を優先すべきだという立場と、全人類を平等に尊ぶべきだという理想は、今なお激しく衝突しており、学術的に議論されています。本授業では、古代から現代に至る世界市民主義の歴史を紐解きながら、こうした正解のない喫緊の問いについて皆さんと共に考え、理解を深めていきたいと思います。	× 毎週水曜 × 12月
1328A 法学研究科	自由民主主義とは何か 日本を含む多くの先進諸国では自由民主主義という理念が自明のものとなるが、実は世界では権威主義的な国が増えており、自由民主主義国とされてきた国でも、権威主義的な思想が蔓延している。私たちは一度「自由民主主義」とは何かを考える必要がある。本授業では、自由民主主義の歴史（思想史）を辿る。そもそも「自由主義」と「民主主義」という二つの異なる概念が合体しているのが自由民主主義である。自由主義が個人の自由を最大限尊重するのに対し、民主主義は多くの人間がまとまることを重視する。よく考えると真逆のことを目指しているように思われるこれら二つの概念がなぜ合体したのか。自由民主主義は最良の政治理念と言えるか。みなさんと共に考えたい。	× 毎週水曜 × 12月
1328B 法学研究科	インターネットと政治 本授業では政治や社会へのインターネットの影響について、様々な角度から考える。昨今、インターネットでは過激かつ極端な主張が目立ち、社会が分断しているというしばしば指摘される。なぜ、人々はインターネットで過激な主張に流されてしまうのか。自由民主主義という政治体制において、私たちはどのようにインターネットと関わるのが望ましいのか。分断を収束させる方法はあるのか。本授業では、近年の日本国内や、欧米各国の事例を参照し、フェイク・ニュースや陰謀論、過激な思想から、諸個人の権利や安定した社会を守っていく術について、これからの社会的担い手である若い皆さんと共に考えたい。	× 毎週水曜 × 12月

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1429A 経済学研究科	データで読み解くわたしたちの生活 ～関係関係？因果関係？～ 私たちの身のまわりには、通学時間、勉強時間、電気の使い方、何をどれだけ買ったか等様々なデータであふれています。これらの数字をどう読み解くかによって、エネルギーの使い方やくらしの工夫、さらには社会の仕組みまで見えてきます。しかし、データに相関があっても、それが本当に「原因」と「結果」を表しているとは限りません。電気代が高い家ほど寒がりなのか、寒がりだから電気代が高いのか。その違いを見極めるには、数学的な視点だけでなく経済学の考え方が欠かせません。この授業では、データから因果関係を探るための基本的な考え方を学びます。	× 11月9～13日
1429B 経済学研究科	行動経済学で読み解くわたしたちの生活 ～身近な生活に潜む経済学～ わたしたちの暮らしには、電気のつけ方、エアコンの温度設定、家電の買い替え、住宅の選び方など、日々の選択があふれています。わたしたちは意識していても実際に行動に移すことが出来ないことがあります。こうした「意識と行動のギャップ」はなぜ生まれるのでしょうか。行動経済学は、思い込みや習慣、環境の違いが私たちの判断にどのような影響を与えるのかを明らかにする学問です。この授業では、暮らしの中に潜む行動経済学の視点を見つけながら、住宅やエネルギーの使い方といった身近な場面で、どのように活かされているのかを探っていきます。	
1430A 経済学研究科	経済学者の知りたいことー経済発展のメカニズム なぜある国は豊かで、ある国は貧しいのでしょうか。経済学者は経済発展のメカニズムについて長年にわたり議論を行ってきました。本講義ではその論争史を概観し、経済学者の視座を紹介します。まず「なぜある国は発展するのか」について、分業やイノベーションなどがいかに経済発展を牽引してきたかを議論します。次に「なぜある国は発展しないのか」について、経済社会制度の違いなどが経済発展を阻害する理由を理解します。そして「資本主義とは何なのか」について、資本主義の多様性を理解します。最後に、経済学の問いが社会課題の変化を背景に、格差問題や気候変動などにも広がってきていることを紹介します。（キーワード：経済発展、資本主義、イノベーション）	× 8月28日 × 8月31日 × 12月1～18日
1430B 経済学研究科	批判されるビジネス ある企業はなぜ批判されるような行動をとるのでしょうか。それは単に「お金儲けしか考えていないから」なのでしょうか？実は、その背景にはもっと複雑な事情があります。本講義では、HIV/AIDSの感染が拡大する中で、「危機に乗じて利益を貪る」として実際に批判を受けたアメリカのヘルスクア産業の企業を題材に、経営者がさまざまな理念の狭間で揺れ動く姿や、錯綜するビジネス倫理の在り方を明らかにします。また、「望ましい経営」とは何か、その捉え方が時代や社会の変化とともにどう変わってきたかを紹介いたします。この講義は「誰のためにビジネスをするべきなのか？」という根源的な問いに向き合うきっかけになります。（キーワード：企業倫理、正義、経営の歴史）	
1431A 経済学研究科	再生可能エネルギーと地域経済 太陽光や風力、水力などの再生可能エネルギーはCO ₂ を排出しないため、地球温暖化・気候変動問題解決の切り札と考えられています。日本には私たちが必要な量の2倍以上の再生可能エネルギーがあるとされていて、その活用が注目されています。しかし、再生可能エネルギーは地球温暖化・気候変動問題を解決するだけでなく、衰退する日本の地域経済を豊かにするとも考えられています。理系の視点だけでなく、文系の視点からも再生可能エネルギーを学んでみませんか。	× 8月 × 9月 × 11月 × 12月
1431B 経済学研究科	環境にやさしいってみんなにやさしい？ 地球全体で問題になっている気候変動問題を背景に、世界中の都市が環境にやさしい都市を目指して様々な取り組みを進めています。しかし、環境にやさしい政策やまちづくりは、本当にすべての人にとって暮らしやすいものなのでしょうか。例えば、自然豊かな公園や緑地の創出は環境負荷を減らし、魅力的な都市づくりに貢献する一方で、周辺地域の地価や家賃の上昇を引き起こし、これまで住んでいた人々が住み続けにくくなる場合もあります。この授業では、環境問題を自然科学だけではなく、社会や経済、人々の暮らしとの関係から考えます。「環境にやさしいこと」は誰にとってのやさしさなのか、環境と公平性の関係について一緒に考えてみませんか。	
1532A 理学研究科	非対称の科学と生命の起源ーなぜ自然界は「鏡合わせ」を拒んだのか？ー もし宇宙人がいるとしたら、どんな姿を思い浮かべますか？ーあなたが思い浮かべたものは、左右対称な姿をしているのではないのでしょうか。私達が目にする生物は左右対称な形をしています。ですがその実、心臓は左に偏っていますし、99%のカタツムリは右巻きだと知られています。そしてなにより生命を形成するアミノ酸には、ほぼ左手型の鏡像異性体しか存在していません。こうした左右非対称性は、なぜ命に組み込まれたのでしょうか。本授業では、生物の形態に現れる左右性から出発し、左利きのヘビと右巻きのカタツムリの物語や、化学における左右の役割を紹介いたします。そして物理学・宇宙物理学もまた、生命の起源に深くかわる重要なピースであることを明かし、最新の研究にも触れます。	× 10月以降の毎週木曜
1532B 理学研究科	身近な物質の見えない秩序 これを読んでいる多くの方が、物理学はつまらないと思っているかもしれません。現代物理学は、世界の成り立ちを探求する「素粒子・宇宙論」と、身近なものや生命体を含む多彩な物質の性質を解明・創造する「物性物理」の二大分野で成り立っています。本授業では、物理学の広大な全体像を眺めることから始め、「物性物理」の不思議について紹介します。例えば、身近な存在である磁石の原理には量子力学が深くかかわっています。他にも、なぜ金属は光って見えるのか、そもそも色とは何かなどの問いを、できるだけ数式を使わず説明します。透明マントを実現する「メタマテリアル」や巨大天体をビーカーの中に再現する「超流動・超伝導」など、一緒にこの世界の奥深さを体験してみよう。	
1533A 理学研究科	植物たちはどう生きるか？ 地面に根を張り、一步も動くことができない植物。彼らは一見静かですが、実は周囲の変化を鋭く察知し、最適に生き抜く驚異的な能力を秘めています。その生存戦略の核心にあるのが、組織や細胞を越えて環境情報を共有する「シグナル伝達」です。例えば、根で感じた栄養不足や乾燥、外敵の襲来といった情報を、ホルモンやタンパク質などをリレーのように全身へ届けることで、迅速な環境応答を可能にしています。本講義では、動けないはずの植物が、いかにして緻密な情報ネットワークを構築し、ダイナミックに生命を維持しているのか、その高度な分子メカニズムに迫ります。シグナル伝達が支える植物の生き様を、ミクロな視点から共に紐解きましょう。	× 毎週木曜 × 9月3～4日 × 11月16～18日
1533B 理学研究科	植物を合体させる!?接木の魅力に迫ろう! スーパーに並ぶナスやトマト、実はその多くが別の個体とつながった接木の状態で育っていることを知っていますか？春になるときれいに咲くソメイヨシノも接木によってその数を増やしています。全く別の個体同士が一つになるこの技術は、古くから農業で使われてきましたが、実はまだ謎がいっぱいです。本授業では「なぜ違う植物同士がつながれるのか？」という疑問から出発し、植物が持つ驚異的な再生能力のほか、近年の研究で明らかになったタバコ属植物が持つ、科の垣根を越えた接木についてお話します。身近な作物の裏側に隠された、接木技術について紹介します。皆さんもぜひ接木に挑戦してみよう。	
1534A 理学研究科	1層の分子で支える次世代の太陽電池 エネルギー問題が深刻化する現代において、「ペロブスカイト太陽電池」と呼ばれる新型の太陽電池が、次世代エネルギーの有力候補として世界中で注目されています。私は、その性能向上のカギとなる「1層の分子からなるネットワーク」に焦点を当てます。分子が1層だけ並んだ世界とはどのようなものなのか？それをどのように観測し、どのような仕組みでエネルギー変換を支えているのか？本講義では、高校で学ぶ物理・化学基礎から丁寧にスタートし、太陽電池の基本原則を理解した上で、単分子層がどのように太陽電池の発展に貢献するのを紹介いたします。目に見えない分子の世界から、社会を支えるエネルギーへ。最先端の科学研究の世界に少し踏み込んでみませんか。	× 9月8～12日 × 10月26～31日 × 12月15～20日
1534B 理学研究科	分子とともに舞う：機能性有機分子が紡ぐ多様な世界 分子。それが目に見えない物質の最小単位だと我々は習った。しかし、原子の組合せの違いだけで、物質は全く異なる性質を示す。特に有機化学では、炭素、窒素、酸素、水素などの最も基本的な元素のみを駆使し、生命現象関連のものから、センサー・太陽電池・有機ELといった最先端の技術に至るまで、多様な分野を分子レベルで支えている。「分子を設計する」とは何なのか？それがどのように特定の機能に結びつくのか？思うがまま分子を操ることはできるのか？本講義では、私がこれまでに開発した機能性有機材料をいくつか紹介し、分子を設計することで「不思議」を作り出す仕組みを解説する。「目に見えない世界こそ、目に見える世界の全てだ」という体験をしようではありませんか。	

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1535A 理学研究科	化学で挑むエネルギー問題～次世代太陽電池の実用化に向けた研究～ エネルギー資源の枯渇が懸念される現代において、太陽の光を電気に変える太陽電池が、再生可能エネルギーを活用するための重要な発電技術として注目されています。その中でも、ペロブスカイトと呼ばれる構造をもつ結晶を用いるペロブスカイト太陽電池は、軽くて曲げられる柔軟性を持ち、製造コストの削減も期待されることから、次世代の太陽電池として活発に研究が進められています。本授業では、大学において研究に従事している立場から、地球規模の問題解決に向けて化学がどのような役割を担っているのか、そして大学の化学では具体的に何を学び、どういった研究ができるのかについて、私自身の研究を例にわかりやすく紹介します。	特になし
1535B 理学研究科	実用化を目指すペロブスカイト太陽電池の研究 ペロブスカイト太陽電池は、ペロブスカイト構造と呼ばれる結晶構造をもつ材料を用いた次世代の太陽電池であり、再生可能エネルギーの活用における重要な技術として、大学のみならず企業においても活発に研究が進められています。本授業では、私が取り組んでいる研究について、具体的に、世界的な研究動向を交えながら概説します。実用化に向けて挑戦を続ける世界中の研究者たちの思考や実験の過程を、共に追体験していきましょう。	
1536A 理学研究科	北海道のシャチには全然違う2タイプがいる！ シャチは世界中の海に生息しており、食べるエサなどの生態的特徴や遺伝的な違いに基づいて「エコタイプ」という複数のグループに分かれています。北太平洋東部では、魚食性で主にサケを食べるレジデント、哺乳類を食べるトランジェント、サメを食べるオフショアという3つのエコタイプに分かれますが、日本のシャチのエコタイプは長らく不明でした。日本で一番シャチが見られる場所、北海道のシャチについてミトコンドリアゲノムを解析したところ、レジデントとトランジェントの2つのエコタイプが見つかりました。これらのエコタイプは、北太平洋東部では別種とすると異なる生態を持つことが分かっています。一種の中に全然違うタイプがいるとは、一体どういうことなのでしょう？	× 10月以降の毎週火曜 × 9月26日～10月8日 × 10月18～23日 × 11月21～30日
1536B 理学研究科	海に行ったら会えるかな？海哺乳類！～興味を持ったらいつでも飛び込もう～ 実は、海にも私たちと同じ哺乳類が棲んでいます。イルカ、クジラ、ラッコ、アザラシ、アシカ、ホッキョクグマなどの「海棲哺乳類」です。もちろん、水族館に行けば見られる種類もありますが、野生の海棲哺乳類は日常生活の中では簡単に見ることはできません。この授業では、研究者がどのような方法で野生の海棲哺乳類を調査・研究しているのかを紹介します。船に乗り、海上で海棲哺乳類を目で見て記録する方法もあれば、死んで海岸に打ちあがった個体から骨や内臓、さらにはDNAを取り出してデータを集めることもあり、様々な方法を駆使して研究を行っています。高校時代から海棲哺乳類の研究を志しながらも、大学卒業後からシャチの研究を始めた私自身の経緯も紹介します。	
1537A 理学研究科	サルの麻酔のおはなし 動物園や研究施設では、サルをはじめとする動物たちに麻酔をかける場面があります。では、なぜ動物に麻酔が必要なのでしょう？本授業では、獣医師として働いた経験ももち、現在は霊長類の麻酔研究を行っている大学院生の立場から、サルの麻酔はヒトや他の動物とどう違うのか、なぜ研究が必要なのかを紹介します。実際に行っている研究内容にも触れながら、「動物福祉」と「獣医療」の視点から、動物麻酔について興味を持ってもらえると嬉しいです。	× 9月17～18日 × 10月18～26日
1537B 理学研究科	動物園の「どうぶつのお医者さん」と研究 動物園は、あなたにとってどんな場所でしょうか？私にとって動物園は、野生動物を身近に知ることができる素敵な場所です。一方で、動物たちが快適に暮らすためには、さまざまな工夫や獣医療が必要です。動物園獣医師は、けがや病気の治療だけでなく、健康診断、繁殖、感染症対策、動物福祉の向上など、多くの役割を担っています。本授業では、実際に動物園で働いた経験をもとに、動物園獣医師の仕事や動物たちの健康を守る工夫について紹介します。また、動物園の獣医療をよりよくするために必要な研究や、これからの動物園について一緒に考えてみませんか。	※旅費注意※ 愛知県犬山キャンパスからの発着となります。
1538A 理学研究科	「原子を見る目」で難病に挑む！クライオ電子顕微鏡法の挑戦 顕微鏡と聞くと、理科の時間に細胞や微生物を観察した経験が思い浮かぶかもしれません。その究極形として、なんと「原子まで見える顕微鏡」が現代の生物学を飛躍的に発展させています。2017年にノーベル賞に輝いた「クライオ電子顕微鏡法」は、タンパク質の分子構造を原子レベルで観察できる最先端技術です。この技術により、今まで謎だった様々な生命現象が解明され、認知症などの神経難病研究も飛躍的に進んでいます。本講義では、こうした神経難病の原因となる異常タンパク質「アミロイド」の構造解析を例に、「原子を見る顕微鏡」がどのように未来の医療につながっていくのかをご紹介します。研究者の日常や実際の研究データも交えながら、最先端の生物学を体感していきましょう。	× 8月24～28日 × 11月2日 × 11月23～28日 × 12月1～4日
1538B 理学研究科	理学と社会がつながるとき ～抗体医薬品の開発現場から～ 大学選びを考える中で、「理学部って、結局なにをする学部なんだろう？」と感じたことがある方もいるかもしれません。医学部や薬学部のように職業がイメージしやすい学部とは違い、理学部は「自然界の仕組みそのもの」を探究する場所です。一見すると社会から遠く、難しそうに見えます。しかし実際は、理学系研究者の「なぜ？」という純粋な好奇心で始まった基礎研究が、新しい医療技術や創薬の土台になっています。本講義では、私が働いているバイオベンチャーCOGNANOの研究を例に、アルブカ抗体を用いた薬づくりの現場を紹介します。なぜアルブカ？どうやって薬を見つけるの？こうした好奇心を突き詰めることが、どのように社会につながっていくのかを体験していきましょう。	
1539A 理学研究科	植物学入門～理学と農学の植物研究の違いとは？～ 植物の研究ってどんなことをするの？そんな素朴な疑問から出発して、実際に行われている植物研究の現場を紹介します。植物のDNAや遺伝子を調べたり、発光する植物を作って体内時計を測ったり…。大学ではさまざまな方法で植物を研究しています。しかし、同じ植物を研究するといっても「なぜその現象が起こるのか」を明らかにしたいのか、「その知識をどう社会に役立てるのか」を考えたいのかによって研究の進め方は大きく変わります。この授業では、理学部と農学部の違いを通して、「同じ植物研究でも間接的に関われば研究の見え方も変わる」という科学の面白さに触れていきます。「なぜ？」と思った瞬間から、探究は始まります。植物研究の世界を一緒にのぞいてみませんか？	× 11月9～15日
1539B 理学研究科	植物学の研究とは？～実際の研究を覗き見しよう～ 人類よりもはるかに長い歴史を持つ植物。穀物や野菜などの収量を増やしたい、病害に強い品種が欲しい、そんな要望を植物研究者たちは叶え理想を実現してきました。では、実際どのようにしてそのような品種を作ってきたのでしょうか？実際に植物の研究室で行われているゲノム編集技術で作出した変異体の解析やその遺伝子を過剰に発現させた時の表現型観察などのような解析が行われているか覗いてみませんか？植物を対象にした研究を遺伝子制御の観点からお話します！	
1540A 理学研究科	ミクロな世界の"回転"の科学—HDDからダイヤモンド磁気センサまで— 磁石には、電磁石と永久磁石の2種類があります。電磁石の磁力の起源はコイル内の電流の回転ですが、永久磁石の磁力の起源はどこにあるのでしょうか？—答えは簡単で、永久磁石内にある電子のすべてが"回転"(スピン)しているのです。近年のナノテクノロジーの進展により、こういった電子のスピンを操る技術が注目を浴びています。スピンの向きを回転や移動を上手に制御することで、より高速な電子デバイスが作成できると期待されています。授業では、スピン発見の歴史や身の回りでの活用例を詳しく説明します。そこには、ミクロな世界の"回転"を使いこなすための、シンプルかつ奥深いアイデアが沢山潜んでいます。	× 7月3～7日 × 7月28～30日 × 11月1～8日
1540B 理学研究科	高輝度X線が照らすナノの世界—SPring-8ってどんな施設？ レントゲン撮影でおなじみのX線は、物質科学におけるスーパースターです。というのも、物質の元素比、ナノ構造、微細な傷、電気特性などなど、あらゆるものの測定にX線が必要なのです。兵庫県山奥にある放射光施設SPring-8には、様々な大学、企業、研究所から、世界最高クラスの強力なX線を使うために人々が集まっています。授業ではX線に関する解説はもちろん、SPring-8を利用する大学院生の日常生活や、実際にどのように研究を行うのかについても説明します。	

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1541A 理学研究科	日常を飛び出すサイエンス：冷やすだけで世界が変わる「超伝導」の世界 スマホが熱くなったり、バッテリーが減ったりする裏側には、物質の中を動く電子の「通りくさ」があります。では、電気のロスがゼロになる「超伝導」では、何が起きているのでしょうか？この授業では、極低温で現れる超伝導の不思議な性質を、身近な話題や映像を交えて紹介します。さらに、磁場や電気抵抗などの測定から、目に見えない電子のふるまいをどう探るのかも触れます。後半では、私が研究している新しい超伝導物質を例に、まだよくわかっていない物質を相手に、少しずつ手がかりを集めていく研究の面白さをお話します。教科書の先にある、まだ誰も知らない物質の世界と一緒にのぞいてみましょう。	特になし
1541B 理学研究科	磁石の不思議から量子の世界へ：超低温で見える物質のひみつ 量子コンピュータは、未来を変える技術として注目されています。でも、その舞台裏では、物質をとて低い温度まで冷やす「超低温」の世界が重要な役割を果たしています。なぜ、そこまで冷やす必要があるのでしょうか？この授業では、「熱のゆらぎ」をキーワードに、低温で物質が見せる不思議な性質を、実験や身近な磁石の話から紹介します。後半では、電子や原子核がもつ「小さな磁石」を利用して物質の中を調べるNMRにも触れます。私が研究している新しい超伝導物質を例に、「わからない物質」を相手に、少しずつ手がかりを集めていく研究の面白さをお話します。	特になし
1642A 医学研究科	在宅医療とは？そこで見落とされていた落とし穴とは？～訪問看護と取り組んだ研究～ コロナが流行し、改めて一人ひとりが医療の大切さを感じていることかと思います。医療には病院、クリニックだけでなく、医療従事者が患者さんのご自宅に向かう『在宅医療』というものがあるのはご存じでしょうか？その中に『訪問看護』と呼ばれる、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などコメディカルが協力して実施するサービスがあります。あるとき、訪問看護にリハビリのセラピストとして働いていた時に、ふとある違和感を感じ取りました。その違和感を自ら調べ、まだ未開拓であることが分かり、現大学院の教授に相談したことが入学のきっかけでした。その違和感とは何か、また大学院生と社会人ととの両立などについて幅広くご紹介できればと思っています。	特になし
1642B 医学研究科	令和のキャリアパスの考え方～様々な進学の可能性とは～ 私は現在医学研究科で研究しております。しかし、学部時代はリハビリを専攻し、そのうち一般企業に就職しました。途中から大学院で経営学を専攻し、さらにMBAの取得や銀行員への転職、一般企業に戻りマーケティング業務を経験しながら、10年経って、ようやく医療の道に戻ってきました。令和の今、様々な生き方が認められている時代です。一つの事をずっと続けることも非常に大切です。一方で、一度の人生で様々なことをやり直し、経験出来る時代にもなっております。博士課程進学に至るまでにも、いくつものパターンがあるのではないのでしょうか？高校生の皆様にも、社会人経験をもつ大学院生として、視野を広く、かつ幅広いご提案ができればと思っています。	特になし
1643A 医学研究科	次世代iPS細胞を用いた難病解明への挑戦 多くの遺伝病を主とする難病は進歩した現代医療を以てしても、未だ治療法がないのが現状です。iPS細胞はそれら難病治療を可能とするポテンシャルを持つ移植細胞源として、世界中で基礎研究、臨床研究が展開されています。一方で、iPS細胞が「治療」だけではなく、病気を理解するための「ツール」として利用されているのを知っていますか？私は「次世代iPS細胞」を用いて、患者さんの体内で起きていることをシャーレで再現しながら、遺伝性筋ジストロフィーの病態解明に取り組んでいます。「次世代iPS細胞×難病解明」というテーマで研究について紹介します。	× 9月29日～10月3日
1643B 医学研究科	「医者じゃなくても医療に関われる！」～臨床検査技師×iPS細胞の現場より～ なぜ医学という科目は高校では教えられないのでしょうか？おそらく答えは医学が多くの学問領域をまたぐ複合領域で成り立っているからだだと思います。高校生の皆さんの中には、医学医療系へと進学し、将来は医療に関わりたいと思える医学部や薬学部を目指す人がいると思います。私自身が臨床検査技師という国家資格を持ちながら、現在、iPS細胞を用いた研究に従事している経験から、医療には実に多種多様な方面から関わられることをお話ししたいと思います。実際の研究や患者会との関わりなど、高校の先生やネットではおそろく見つからないであろう話から、今一度進路を他の視点から眺める機会にさせていただきたいです。	× 9月29日～10月3日
1644A 医学研究科	iPS細胞による創薬と再生医療 私たちの体を作るあらゆる細胞に変化できる「iPS細胞」。本講義では、この細胞が医療をどう根本から変えるのかを解説します。軸となるのは2つ。患者さんの細胞から病気を再現し、特効薬を見つける「創薬」と、失われた組織を思い出して移植する「再生医療」です。さらに講義の後半では、ゲノム編集技術を練り込んでiPS細胞に治療用の機能を精密に組み込み、病気に立ち向かう「細胞をデザインする」最先端の合成生物学的なアプローチについても紹介します。未来の医療を創る面白さ、一緒に体感しましょう！	特になし
1644B 医学研究科	ゲノム編集 × iPS細胞 で何が出来る？ 無限に増え、どんな細胞にも使える「iPS細胞」と、生命の設計図を書き換える「ゲノム編集」。この2つを掛け合わせると、医療の常識が大きく変わります。本講義では、患者さんの遺伝子の異常を直して体に戻す「究極の再生医療」や、免疫の少ない反応を回避して誰にでも移植できる「万能なiPS細胞」の開発など、最新の研究を紹介します。さらに、細胞のゲノムを精密にデザインし、病気を見つけるための特別な機能を細胞に組み込む「次世代の治療法」にも迫ります。	特になし
1845A 工学研究科	生命を育む惑星の条件：データで解き明かす地球の奇跡 地球ははじめから生命にあふれていたわけではありません。誕生直後の海は、塩酸や硫酸が溶け込む「強酸性の熱水」でした。そこからいかにして生命を育む穏やかな中性の海へと変貌したのか、そのスケールの大きな惑星進化のメカニズムに迫ります。さらに、金星や火星の環境データ（距離、質量、温度、大気圧など）と比較しながら、なぜ地球だけが液体の水を保持し、生命を育める条件をそろえられたのか、その理由を高校生のみなさんに推理してもらいながら、解き明かします。本授業を通して、地球には海があり液体の水があるという「当たり前」のように思える事実自体が、宇宙の視点から見るといかに奇跡的で、有難いことであるかを、一緒に実感してみよう。	× 8月24～25日 × 8月31日～9月11日 × 10月以降の毎週金曜
1845B 工学研究科	地球化学の世界地図：化学の目で見る自然の摂理 天気、地震・宇宙・温泉。その身近さやスケールの大きさを、「地球面白そう、いずれ勉強してみたい」と興味を持つ高校生は少なくないはずですが。しかし、高校生の中で、地系を選択し、かつ地学を選択する人は、約0.2%しかいません。私は大学に進学してから高校地学を勉強しはじめ、今では「地球化学」という分野で研究活動を行っています。地球化学は、火山の噴火や温泉、大気海洋の組成変化などを筆頭に、身近な自然現象の背後で起こる、物質の移動や化学反応のメカニズムを探究する学問です。そこで、今学んでいる数学や理科（特に化学）が、地学の研究分野でどう生きてくるのか？その何が面白いのか？をみなさんにお伝えしようと思います。	特になし
1846A 工学研究科	なぜ今、江戸時代の治水がアツいのか？ 日本の川は流れが急なことで知られています。流れが急ということは川底の土砂と、それによって形作られる地形がよく動くということです。江戸時代の人々はこの「川の流れが土砂を動かし、地形を作る力（侵食、運搬、堆積）」を借りて川の形を管理していました。「自然の力を借りる」なんて、なんとなく出来すぎた話に思えるかもしれません。が、意外にそんなことはないんです。当時の技術、考え方が現代の河川における問題を解決する糸口になるかもしれないという発想での研究について、工学的な視点で最新の事例を交えながら紹介します。温故知新が産み出した「自然と協力する河川工学」の世界をのぞいてみませんか？	特になし
1846B 工学研究科	川の地形を読んでみよう 「川」と聞いてはじめて連想されるのは水だだと思います。しかし、同時に川の三作用（侵食、運搬、堆積）によって土砂も動いています。土砂の動きは地形の変化という形でしか見えないので意識されることは少ないと思いますが、河川管理を考えるうえでこれらは重要な意味を持ちます。例えば過剰な土砂の堆積は氾濫の危険性を向上させます。逆に堤防近くでの過剰な侵食は破堤の危険性を向上させてしまいます。また、土砂によって形成される地形は水生生物の住処や産卵床となったり、植物の生育を促したり、水を浄化したりといった環境面での機能も見逃せません。普段何気なく通り過ぎている川を立ち止まって眺めてみたくなるようなお話ができればと思います。	特になし

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1847A 工学研究科	「良い」街づくりって何だろう？ ～都市・土木計画の視点から～ 皆さんは、「良い」街づくりとは何だと思えますか？例えば、住民一人ひとりが、快適で効率的に生活できる街になれば、それは良い街づくりと言えるのでしょうか？あるいは、あらゆる面で安全であれば、それは良い街なのでしょうか？土木計画とは、「土木インフラをどのように整備するかを計画・決定する営み」を指します。とすれば、その決定にあたり、どのような街や社会が「良い」といえるのか、そこから議論を始める必要があるのです。前提に立ち返り、ときに前提を疑い、そこから新たな可能性を模索して、よりよい社会へ繋げていくのが研究の醍醐味です。その楽しさとやりがい、皆さんにお伝えできればと思います。	× 毎週水曜
1847B 工学研究科	数字って、本当に万能？ ～数字では測れない街づくり～ 何かを意思決定する際、数値的な根拠は非常に強力です。土木インフラの整備でも同様で、土木事業評価では「費用便益分析」という手法が広く用いられています。これは、建設にかかる費用よりも、整備によって得られる利益が大きいと見込まれる場合は、そのインフラを整備すべきだと判断するものです。しかし実際には、インフラ整備による利益をすべて正確に数値化することは困難で、限定的な要素に基づいた不完全な数値根拠になっている場合があります。そこで私は、このような数値根拠に基づく意思決定それ自体の限界を明らかにし、より望ましい意思決定のあり方を研究を通じて模索しています。皆さんはどう考えますか？ぜひ一緒に議論しましょう！	× 毎週水曜
1848A 工学研究科	氷床の重みで地球が凹む!?—実際に掘って確かめてみた— 私たちが立っている地球、地殻。実は輪ゴムと同じ「弾性体」の性質があり、南極やグリーンランドにあるような巨大な氷床の荷重で「凹む」ことがわかっています。地球温暖化で氷床・氷河は急速に減少しており、荷重から解放された地殻は大規模な変形や温室効果ガス放出などを引き起こす可能性があります。そこで2024年、本授業の講師は北極圏での2カ月間の研究航海に乗船し、掘削船で海底を掘って実際に地層にかかっている力の測定を行いました。本授業では地球科学の基礎をフォローしつつ研究の詳細をわかりやすくお伝えするとともに、国際的な研究航海の船上生活、実践的な英語習得のノウハウなどを交えてお伝えし、関連する研究や進路に興味を持っていただくことを目指します。	× 毎週金曜午後 × 9月8～10日 × 9月15～18日 × 12月7～11日
1848B 工学研究科	断層をデジタル空間で再現し地震メカニズムの解明に挑む! 「天気予報」があるのに「地震予報」がないのは不思議だと思いませんか？日本では、日本海溝や南海トラフなど地震のホットスポットがあり、数十年に一度巨大地震を引き起こします。地震は国家規模で甚大な被害をもたらすため、メカニズムを正確に把握できれば、高精度な速報・予報・防災システムを作り出し防災・減災に大きく貢献できます。そこで登場するのが、3Dスキャンを用いた断層の再現です。震源断層のサンプルを3Dデジタルスキャンし内部の形状を再現することで、地震時に起こる挙動のシミュレーションが可能になります。本授業では、地球科学の基礎をフォローしつつ、研究の背景や方法、予想されるインパクトに加え、コンピュータを用いた研究の面白さもお伝えします。	× 9月2～4日 × 9月13～16日 × 11月30日～12月2日
1849A 工学研究科	働きながら博士として学ぶ:社会人博士が考える川とまちの未来 「研究者」と「会社員」は別々の道だと思われがちですが、実際には、会社で働きながら大学院で研究を続ける「社会人博士」という進路があります。私は、建設コンサルタントとして、河川や防災、まちづくりに携わる会社で働く一方で、京都大学大学院で、人口減少や都市の変化、洪水リスク、土地利用のあり方について研究しています。本授業では、「社会人博士」とはどのような学び方・働き方なのかを自身の経験をもとに紹介するとともに、川が暮らしや観光、防災、地域の魅力づくりに関わる重要な空間であることを、日本と海外の事例から考えます。進路を考える視点と、社会課題を考える視点の両方に触れられる授業です。	× 9月2～4日 × 9月13～16日 × 11月30日～12月2日
1849B 工学研究科	日本と海外から考える「河川のポテンシャルと水辺での暮らし」 「みなさんは、川について、どんなイメージがありますか？」川は、自然を楽しめる場所でもあり、洪水などの災害をもたらす「危ない場所」でもあります。日本と海外の事例をもとに、水辺を憩いの場や観光、住まいの場として活かす工夫を紹介します。さらに、日本と海外の水辺空間の事例を通して、防災と利活用をどう両立するのか、これからの時代にどのような川との付き合い方が求められるのかを、一緒に考えます。身近な川を見直しながら、河川空間のポテンシャルや、水辺での暮らし、地域の未来をつくる視点について一緒に学びます。見慣れている、近くの川の見方が大きく変わる授業です。	× 9月27～28日 × 10月16日 × 11月6日 × 11月27日 × 12月18日
1850A 工学研究科	都市はなぜ水に弱い?氾濫のしくみを解く 近年、ゲリラ豪雨や台風により都市部の浸水被害が頻発しています。しかし、「なぜ同じ雨でも場所によって被害が違うのか？」を考えたことはあるでしょうか。本授業では、都市における内水氾濫のしくみを身近な例から理解することを目指します。「身近で水がたまりやすい場所」を考え、その理由を議論します。そのうえで、道路の勾配や側溝、下水道といった排水のしくみを解説します。さらに、研究で用いるシミュレーションの基本的な考え方を紹介し、「もし排水設備がなかったら?」「どこに施設を増やすべきか?」といった問いに対し、科学的に答える方法を体験します。本授業を通して、都市インフラの重要性と、自然災害に対して科学がどのように役立つのかを理解することを目標とします。	× 8月24日～9月23日 × 11月30日～12月3日
1850B 工学研究科	都市の洪水を予測する:シミュレーションの役割 大雨による洪水を事前に予測し、被害を減らすことはできるのでしょうか。本授業では、コンピュータを用いたシミュレーションにより都市の浸水を予測する研究を紹介します。氾濫が起こる基本的な仕組み（水の流れ・地形・排水）を整理し、同じ雨でも被害が異なる理由を考えます。その後、都市をどのようにモデル化するのか（道路・建物・下水道の再現）を解説します。特に、仮想的排水ネットワーク構築手法や、都市構造を再現する工夫を紹介。最後に、「どこに排水施設を作れば被害を減らせるか」「気候変動で何がかわるのか」といった課題に対し、シミュレーションが意思決定にどう役立つのかを議論します。理系の学びが社会とどのようにつながるのかを実感できる授業です。	× 9月27～28日 × 10月16日 × 11月6日 × 11月27日 × 12月18日
1851A 工学研究科	災害は“自然”だけで起きるのか?～社会と制度から考える防災～ 地震や台風などの自然現象そのものだけで、災害は起こるのでしょうか。本授業では、防災は「自然」だけではなく、社会、制度、教育、インフラ、コミュニケーションなどの視点から考えます。世界の防災政策から地域社会の日常までをつなげながら、なぜ被害の大きさに差が生まれるのか、そして私たち一人ひとりが何ができるのかを一緒に考えます。	× 9月27～28日 × 10月16日 × 11月6日 × 11月27日 × 12月18日
1851B 工学研究科	防災におけるコミュニケーションの重要性 ～世界の政策から私たちの日常へ～ 災害時には、正確な情報を迅速に伝えることが重要ですが、実際には多くの困難があります。本授業では、防災におけるリスクコミュニケーションについて、世界の防災政策から地域社会、そして私たちの日常生活までをつなげながら考えます。2011年の福島第一原子力発電所事故やチリ津波の事例を通して、なぜ情報共有が難しいのか、信頼や判断がなぜ重要なのかを学びます。	× 10月5日以降の毎週月曜 × 9月14～16日 × 9月28～29日 × 10月14～15日
1852A 工学研究科	地震じゃないのに津波が来た!?～トンガ火山噴火と“気圧波”の正体～ 2022年の1月に日本から遠く離れた南太平洋のトンガで起きた大規模な火山噴火によって、日本でも津波が観測されたことを知っていますか？実は、この津波は地震によるものではありません。この現象は「気象津波」と呼ばれ、火山噴火によって発生した大気の変動の波が、音速で地球の表面を伝わり、遠く離れた日本の海を揺らしたのです。津波といえば地震による海底の揺れを思い浮かべるかもしれませんが、気圧の変動の波が海面を励起し、それが発達して沿岸で大きな津波となって観測されることもあるのです。この授業では、火山の噴火によって発生した気圧波がどのようにして伝播し、津波を引き起こすのか、そのメカニズムを図やアニメーションを使ってわかりやすく説明します。	× 10月5日以降の毎週月曜 × 9月14～16日 × 9月28～29日 × 10月14～15日
1852B 工学研究科	静かな海に突然の津波!?～気圧の変動がつくる“もう一つの津波”～ 日本の九州地方の西岸では、冬から春にかけて時々「気象津波」と呼ばれる現象が観測されていることを知っていますか？この現象は、地蔵や台風のような前兆もなく、大気中の急激な気圧や風の変化の波が海面を揺らし、津波のような波を引き起こすものです。特に、風や気圧の変動が移動する速度と海の波の進む速度が一致すると、「ブロードマン共鳴」と呼ばれる現象が起き、海面の波が大きく増幅されます。過去には、長崎の低地で浸水被害をもたらした事例も報告されています。この授業では、なぜ気圧の波が海面を動かすのか、そして九州西岸でなぜ気象津波が発生しやすいのか、そのメカニズムを図やアニメーションを使ってわかりやすく説明します。	× 10月5日以降の毎週月曜 × 9月14～16日 × 9月28～29日 × 10月14～15日

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
1853A 工学研究科	周囲の自然保護区から産業開発まで 私たちは生まれてからこれまで、常に興味深いさまざまな材料を見つけてきました。例えば、貨幣を作るための金属や、おはじきのような遊びに使われる身近な材料などがあります。しかしながら、地域によっては特定の資源が豊富に存在する一方で、別の地域では自然資源が不足している場合もあります。また、この授業は材料科学研究の普及活動の一環であり、大学における進学の見学の一つとして位置づけられています。本授業では、日本では一般的に入手しにくい世界各地の材料の種類、簡単な抽出プロセス、そして基礎的な工業的利用について紹介します。授業は日本語で行い、スライドは英語を使用します。	× 毎週金・木・火
1853B 工学研究科	代替資源としての植物抽出 多くの人は、公園で自然や花を眺め、その美しさを感じる時に楽しさを覚えます。しかし一方で、見た目が好きくない植物に対しては否定的に感じるという矛盾も存在します。では、その「よくない」と思われるものが、実は美しいもの以上に大きな価値や影響を持っているとしたらどうでしょうか。このようなことは、特定の場合に起こり得ます。その一例が、植物の内部成分を抽出して化学物質へと変換し、それを人間生活の中で技術的に応用することです。本授業では、すべての生き物が有用であるという柔軟な発想を促すことを目的とし、植物がどのようにして技術応用へと転換されるのかについて、わかりやすく解説します。授業は日本語で行い、スライドは英語を使用します。	特になし
1954A 農学研究科	ゲノム編集で解き明かす“地球最強の動物” 内容：地球上で最強の動物とはなんだろう。子供のみなならず研究者たちも、長年にわたる疑問を胸に抱いてきました。種が詳細に記載されるようになるにつれて、その驚くべき答えが浮かび上がってきました。それは、なんと“昆虫”です。地球上の全動物種の70%以上をも占める昆虫は、およそ3億年前に爆発的に繁栄しました。さらなる研究によって、その爆発的な繁栄の裏には、当時の昆虫のみが獲得した“究極の成功戦略”があったことがわかりました。最新の生物学ツールであるゲノム編集を用いて、この“究極の成功戦略”が3億年前からどのように進化してきたかが明らかになりつつある最新の研究成果とともに、お話したいと思います。	特になし
1954B 農学研究科	20年後の生物学とは？～ゲノム科学で生物進化を操る時代へ～ 近年、CRISPR-Cas9をはじめとするゲノム編集技術や光遺伝学などの遺伝子操作技術の発展により、特定の遺伝子を自在に操作することが可能となり、生物の形質や機能を人為的に変える時代が到来しつつある。これらの技術は今後20年で、医療や農業に革新をもたらすのみならず、恐竜の復活やヒトの飛行、生物との意思疎通といった、かつて人類が思い描いてきた夢が現実になっていくと予想される。本授業では、高校生に対して「ゲノム編集が自由にできるとしたらどんな生物を創りたいか？」という問いを提示するところから出発し、進化の仕組みやゲノムの基礎を概説する。その上で、高校生の回答に関連する最新研究を紹介しながら、双方向的で親しみやすい授業を展開する。	特になし
1955A 農学研究科	酵素工学の研究で、国境を超える 酵素工学という学問について、皆様は馴染みのないと思います。しかしながら、エネルギー生産や、健康医療機器、バイオものづくり等の観点で有用視されており、近未来の国際社会を形成するのに不可欠です。酵素工学での実験手法は、現代の生物学や物理化学など、様々なアプローチが考えられます。私は、京都大学の農学研究科に所属しており、生物材料を扱った研究に挑戦してきました。しかしながら、物理化学の観点は農学研究科でできることが限られており、研究を進めるべく世界中の研究者と共同しています。私のこれまでの経験から、国際的に進めてきた研究について紹介します。本講義を通じて、近未来の国際社会を生きる皆様のキャリアを考える契機となれば幸いです。	特になし
1955B 農学研究科	「酵素の力」で、人々の健康を測る、守る一次世代ヘルスケアへの挑戦 皆様が生化学で学習した生き物が持つタンパク質、実は最先端の科学技術をもつてしても、その本質は謎に包まれています。とりわけ、生き物の化学反応を触媒する酵素は、神秘的な性質を持っており、私たちの生活でも色々なところで活躍する、縁の下の力持ちです。京都大学農学研究科では、様々なアプローチを駆使して、酵素の働きや役割の本質から実社会での応用までを見据えて研究をしています。そんな研究の一旦として、私が専門とする「タンパク質と電気」を融合した研究により、人々の健康を守るための挑戦をいくつか例を挙げて紹介します。酵素の研究に限らず、「不可能を可能にする」科学者マインドを習得し、将来像を考える一助することを目指します。	特になし
1956A 農学研究科	世界がもっと鮮やかに見える小さな生き物のはなし～地衣類学入門～ 地衣類とは、菌類と藻類の共生体です。高校生物の「遷移」を学ぶときに、パイオニア種の一つとして紹介されています。しかし、遷移初期だけではなく、地衣類はみなさんの身の回りでもひっそりと生きています。樹皮や緑石、ごみ収集ネットなど、普段は風景の一部として見えている場所にも、実は地衣類が住んでいるかもしれません。さらに、共生体という生き方や人間の生活との深い関わりなど、この小さな生き物にはたくさんの魅力が詰まっています。みなさんも地衣類の視点から世界をのぞいて見ませんか？きっと、高校で覚えなければならない生物用語の一つから、忘れられない不思議な生き物の一つになるはずです。	× 毎週月・火 × 9月4日 × 9月11日 × 9月30～10月2日 × 12月9～11日
1956B 農学研究科	図鑑ってなに？～もっと散歩が楽しくなるフィールドワークの話～ みなさんは、どのような図鑑を見たことがありますか？最後に図鑑を手にとったのはいつでしょうか？私は、地衣類という生き物が好きで高校2年から地衣類の図鑑を手に取り、10年学んできました。そして昨年、地衣類の図鑑を出版する機会をいただきました。図鑑の種類によって視点が変わったり、観察したいことによって必要な図鑑が変わったりなど、図鑑の使い方にはちょっとした「コツ」があります。なかなか一度に何冊も開かない図鑑を並べながら、私が経験してきたフィールドワークについてお話できればと思います。	特になし
1957A 農学研究科	カニ殻はただのゴミじゃない！未来を変える“キッチン”の正体 突然ですが、カニは好きですか？実は、食べた後に捨てられているカニ殻には、「キッチン」という未来の材料が隠されています。キッチンは、健康食品や医療材料など、身近なところですでに活躍している天然素材です。さらに、環境にやさしい新素材としても注目されています。この授業では、「キッチンとはどんな物質なのか」「なぜ医療やものづくりに利用されているのか」「液晶」という不思議な性質がなぜ重要なのか」を身近な例を交えながら学びます。液晶とテレビやスマホを思い浮かべられるかもしれません。実は、カニ殻の成分も未来のディスプレイや高機能材料に繋がる可能性を秘めています。授業後には、今まで「ゴミ」と思っていたカニ殻が、“未来の資源”に見えてくるかも？	× 7月8日～10日 × 7月24日 × 7月27日
1957B 農学研究科	「磁石で材料をあやつる!? 脱プラスチック時代の新素材 環境問題やプラスチックごみの増加が課題となる中、木材やカニ殻から作られる「バイオマス材料」が注目されています。木に含まれるセルロースや、カニ殻に含まれるキチンは、環境にやさしいだけでなく、未来のものづくりを支える素材です。この授業では、「バイオマス材料とは何か」「なぜ“脱プラスチック”社会で期待されているのか」を、身近な例を通して学びます。さらに、その可能性を広げることが「磁石の力」です。磁石は金属だけでなく、材料の内部構造を整え、性能を高めることにも利用できます。“触れずに材料をコントロールする”最先端技術を通して、環境にやさしい未来素材の世界をのぞいてみましょう。	特になし
1958A 農学研究科	熱帯林でのフィールドワーク入門：なぜ研究者は熱帯林に魅了されるのか？ 熱帯のジャングルと聞いて、あなたは何を想像しますか？私はゾウやオランウータンが生息するマレーシア・ボルネオ島のジャングルで、森林生態学（森の仕組みを解き明かす学問）の研究に取り組んでいます。この授業では、熱帯林の研究者が現地に行って実際に何をしているのか、なぜ熱帯林はそれほど多くの研究者を魅了するのか、現地でのリアルな体験談を交えながら紹介します。授業の後半では、現在進行している熱帯林を取り巻く問題やその背景について、私たちの身近なものがどのように関わっているのかに触れつつお伝えします。	× 8月24日～10月1日
1958B 農学研究科	熱帯雨林の植物多様性の謎：なぜ同じ場所に、違う植物がこんなに生えるの？ 熱帯雨林には地球上の6割もの植物種が生息していると言われていて、しかし、自然界は冷たい弱肉強食の世界のほず。なぜ特定の強い種だけが勝つ残らずに多くの種が共存できるのでしょうか？この謎を日本の身近な森と比較しつつ、地球の歴史や、植物と菌の関係性から紐解きます。さらに、熱帯雨林といっても一様に植物多様性が高い訳ではなく、多様性が高い場所と低い場所がモザイク状に分布しています。最近の研究では、この多様性の変動には「土の栄養」が大きく関わっていることが明らかになってきました。なぜ土の栄養によって多様性は大きく変わるのか、私が現在取り組んでいる最先端の研究内容とともに紹介します。	× 毎週月曜

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
2059A 人間・環境学 研究科	日本語と英語から世界の言語をのぞく——言語類型論入門 皆さんが英語を学習するにあたって、日本語との違いを意識したことはあるでしょうか？例えば、英語の基本語順はSVOといわれますが、日本語ではSOVです。一方で、日本語と英語はどちらも修飾語が被修飾語の前に置かれるという特徴があります。このように、日本語と英語の間には数多くの共通点と相違点が見られます。では、世界の言語に目を向けてみるとどうでしょうか？ 世界には7000以上の言語があるといわれていますが、これらもまた共通点と相違点で様々なグループ分けが可能です。そして、このような分析を行う学問「言語類型論」の知見は、新たな言語に向き合うときにも応用することができます。日本語と英語の比較を出発点として、未知の言語の解読に挑戦してみましょう。	× 8月25～28日
2059B 人間・環境学 研究科	「魅せる」ことば・オノマトペの魅力 ドキドキ、ワクワク、ザーザー……皆さんも日常で「オノマトペ（擬音語・擬態語）」を使ったことがあるはず。こうした言葉は、音や動き、気持ちを生き生きと表現する力を持ち、読む人・聞く人の想像をかき立てる「魅せる」ことばといえます。では、オノマトペは他の言語にもあるのでしょうか？ 例えば中国語や英語では、どのように音や感情を表現しているのでしょうか？ 本授業では、日本語のオノマトペの特徴を紹介したうえで、世界の言語における表現との比較を行います。ことばの響きと意味の不思議な関係を通して、言語の多様性や共通性に触れてみましょう。	
2060A 人間・環境学 研究科	私は100年前の「高校生」と仲良くなれるだろうか？ポロポロの学ランに学ぶ教育史 学校に馴染めなかった高校時代の私はある日、地元の駅前でポロポロの学ラン・学生帽にマントや下駄姿の不思議な格好の銅像に出会い、大きな衝撃を受けました。もしタイムスリップしたら、私は彼らと仲良くなれるだろうか。本講義ではこうした関心をきっかけに、100年前の「高校生」が創り上げた強烈な学生文化の世界へ皆さんを誘います。当時、エリート学生だった彼らは、なぜ学ランや白線入りの学生帽をポロポロに着崩したのか？ SNSがない当時、そうした文化はどのように全国へ拡大したのか？ 当時の資料から、一緒にその謎に迫りましょう。当日、私は「綺麗な」学ランと白線入りの学生帽姿で登場します！ 当たり前を疑い、歴史を読み解く探究の面白さを共有できればと思います。	× 8月24日～9月6日 (応相談) × 11月19～23日
2060B 人間・環境学 研究科	100年前の「高校」はどんな様子？ポロポロの学ランから探る100年前の学生文化 学校に馴染めなかった高校時代の私は、ある日、地元の駅前でポロポロの学ラン・学生帽にマントや下駄姿の不思議な格好の銅像に出会い、大きな衝撃を受けました。もしタイムスリップしたら、私は彼らと仲良くなれるだろうか。本講義ではこうした関心をきっかけに、100年前の「高校生」が創り上げた強烈な学生文化の世界へ皆さんを誘います。エリート学生だった彼らはなぜ、競って学ランや白線入りの学生帽をポロポロに着崩したのか？ 戦前の日本で「高校」とはどのような場だったのか？ 当時の資料から、一緒にその謎に迫りましょう。当日、私は「綺麗な」学ランと白線入りの学生帽姿で登場します！ 当たり前を疑い、歴史を読み解く探究の面白さを共有できればと思います。	
2061A 人間・環境学 研究科	「共学」って当たり前？——学校制度の歴史と多様性を考える 本授業では、1945年以降の戦後改革期における男女共学制度の形成過程を扱う。政治的転換期を背景に、日本の中等教育は共学化へと大きく舵を切ったが、その導入と定着は理念通りに進んだわけではなく、制度的・文化的な矛盾や地域差を伴っていた。この歴史は現在にも影響を残し、共学・別学の併存という形で制度のグラデーションが見られる。授業では高校生の実感を聞きながら、コーディネーター自身の中国での経験（1949年の内戦終結後、中国では別学がほぼ廃止された）と照らし合わせ、制度の歴史的相対性と価値観の多様性に気づく機会としたい。「共学」は当たり前ではなく、社会の中で作られ、選ばれてきたものであることを考える出発点とする。	
2061B 人間・環境学 研究科	「働く・働かない」は自由なのか？——女性のしごとと社会のしくみ 本授業では、「女性は働く/働かない」という選択が、どのような社会的・制度的条件のもとで意味づけられてきたのかをたどる。戦後日本では、高度経済成長期の家族政策により「サラリーマンの夫と専業主婦の妻」というモデルが広がり、中国では社会主義体制のもと「共働き」と育児の社会的分担が推奨された。両国はそれぞれ異なるかたちで、女性の働き方を方向づけてきた。こうした歴史的背景を比較しながら、性別分業が「自然なもの」ではなく、社会によって選ばれてきた構造であることに目を向ける。あわせて、「平等」「自由」といった語が、それぞれの制度の中でどのような意味を与えられ、私たちの価値観にどのように影響してきたのかを、高校生とともに考える機会としたい。	× 毎週木曜
2062A 人間・環境学 研究科	動物園における種の保存の取り組み：国内の絶滅危惧種ツシマヤマネコを事例に みなさんは、動物園にどのような印象を持っていますか？動物園で飼育展示されている動物の多くは、野生動物に分類されます。では、本来「野生」で生きているはずの動物を飼育するということは、何を意味するのでしょうか。動物園は野生動物種の飼育を通じて、レクリエーション施設として以外にも、環境教育や研究などにおいて社会的役割を担うことが期待されています。この授業では、国内の絶滅危惧種に指定されているツシマヤマネコを事例に、飼育下繁殖や普及啓発活動などを通じて、動物園が野生動物の保全にどのように関わっているのかについて取り上げます。動物園の社会的意義の1つである種の保存に焦点をあて、現代における人と野生動物の関係について考えてみましょう。	特になし
2062B 人間・環境学 研究科	絶滅危惧種の保全とは何か：対馬におけるツシマヤマネコの保全を事例に考える 人間活動のせいで環境が破壊され、絶滅の危機に瀕している動物がいるのであれば、守るのは当然のこと。でも、どうして？ どうやって？ この授業では、国内の絶滅危惧種に指定されているツシマヤマネコについて取り上げます。対馬に住んでいる人でも野生のヤマネコを見かけることは滅多にありません。しかし、ヤマネコの生息環境と地域の生活は常に隣り合っています。このような野生動物の保全は、どのように可能となるのでしょうか。この授業では、ツシマヤマネコの保全事業について、対馬の地域社会の変化や法制度から仕組みや難しさを解きほぐすことを試みます。当たり前のようで簡単には答えのない複雑な問題に向き合ってみましょう。	
2063A 人間・環境学 研究科	言語学とは？ 言語学についての概説と言語学内の様々な研究分野（統語論や音声学など）を知ってもらい高校生の見識を広げることを目的とします。その過程で言語学という学問がどういったことを行っているのかを、簡易的なテーマをもとに自分たちでも考えてもらい、研究の楽しさを知ってもらうことを目指します。具体的な例として、日本人に身近な「ら抜き言葉」をテーマに「ら抜き言葉」というものが生まれたのかをテーマに講義を進めます。そして、勉強と研究はどのように異なるのかを体験していただきたいです。	× 毎週月・木・金（応相談）
2063B 人間・環境学 研究科	生成文法について 言語学の一分野である統語論において、盛んに用いられている理論である生成文法について知ってもらい高校生の見識を広げることを目的とします。生成文法の基本理念である、言語能力はヒトの生得的な能力である個別言語（日本語や英語 etc.）には普遍的に共通する構造があるのではないか？ という問いを具体的に考えていくことで、研究の楽しさを知ってもらうことを目指します。具体的な例として、生成文法が発達した背景からその理論の内容を紹介し、言語の深遠さを感じていただきたいです。	
2064A 人間・環境学 研究科	河川敷に暮らす—流域治水を「堤外地集落」から考える— 「流域治水」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。これは、近年の水害激甚化を受け、ハード・ソフトを組み合わせた新たな治水政策として、国が提唱しているものです。この政策は河川行政の根本的転換として評価されていますが、全ての住民が不利益なく水害リスクを軽減できるわけではありません。例えば、長く住み慣れた家から大都市を守る遊水地建設のため、移転して欲しいと言われたら、すんなり受け入れられるでしょうか。治水をめぐるこうした複雑な合意形成を、どのような原則の下で進めればよいのか。この講義では、日本において合法的に河川敷で暮らす「堤外地集落」を地理学的に分析することで、この難題を考えるヒントを皆さんと探っていきたいと思っています。	× 9月以降の毎週火・水 (応相談)
2064B 人間・環境学 研究科	地形図からはじめる地理学—身近な地域を「読む」— 地形図は、明治期から現在に至るまで継続的に発行され、日本全国の地理的情報を統一様式で表現してきた稀有な資料です。複数時期の地形図を比較することで、文献資料のみでは捉えきれない地域変容の実像に迫ることができます。本プログラムでは、皆さんの身近な地域に着目し、実際に地形図へ色を塗りながら、対象地域が自然・人文両面面でどのように変容してきたのかを考察します。さらに、文献資料や現地写真、古地図など多様な資料を組み合わせることで、地域変容の要因や影響、さらには他地域と比較した際の特色について議論します。地形図を単に「見る」のではなく、「読む」ことで得られる発見を、皆さんとともに体験できればと考えています。	

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
2065A 人間・環境学 研究科	どうして空き家はなくなるの？ 皆さんは「空き家」と聞くとどのようなものを思い浮かべますか？ 庭木が伸び切っている家、窓ガラスが割れている家、屋根が壊れている家などでしょうか。日本には空き家が900万戸あります。しかし、その中の多くは皆さんが想像するよりもずっと「普通の家」の見た目をしています。「普通の家ならだれかが住めばいいのに」と思う人も多いでしょう。しかし、一度空き家になった家を誰かが住む家にするためにはとても多くのプロセスが必要になるのです。今回は、実在する空き家で実際にあった様々なトラブル事例をもとに空き家の解消プロセスとその難しさについてお話します。	× 毎週木曜 × 10月19～22日
2065B 人間・環境学	空き家はどこからきてどこへ行くのか 空き家はなぜ生まれるのでしょうか？ 皆さんの身近にも存在する「空き家」は日本の社会的課題の1つとされています。そんな空き家がどうして発生し、どのように解消されていくのか皆さんは知っていますか？ 今回は日本の住宅供給の歴史や日本各地の空き家活用事例などを紐解きながら、現存する空き家がどのように解消されていくのかについて皆さんと一緒に考えていきます。	
2066A 人間・環境学	見えない「こころ」を科学する 「こころ」は脳にあるのでしょうか、心臓にあるのでしょうか。それとも、私たちの行動や言葉に表れるものなのでしょうか。心理学は、行動観察、アンケート、実験、脳活動の測定などを通して、目に見えない心を科学的に理解しようとしてきました。本授業では、身近な性格診断や漫画を入口に、古代から現代までの心の捉え方をたどります。文系・理系を横断する心理学の面白さに触れながら、私たちはなぜ心を理解しようとするのか、その先にどのような人との関わりや支援があるのかを一緒に考えてみましょう。	× 毎週火曜
2066B 人間・環境学	脳から「こころ」は見えるのか？ 脳を調べることで、人の心はどこまで理解できるのでしょうか。脳科学（神経科学）は、ニューロンの電気信号、脳の血流、細胞や分子の働きなど、さまざまなスケールから脳に迫る学問です。本授業では、「心はどこにあるのか？」という問いを手がかりに、古代エジプトやギリシアの考えから、脳波やfMRIなどの現代的な計測方法までをたどります。中学理科や社会科の知識をもとに、「脳からこころを見る」とはどういうことかを一緒に考えてみましょう。	× 毎週火曜
2067A 人間・環境学 研究科	「スラム」は本当になくすべき場所なのか？ 「スラム」と聞くと、危険、貧困、不衛生、取り壊すべき場所というイメージを持つかもしれません。実際に、火災や洪水、住宅の老朽化、土地の権利問題など、深刻な課題も存在します。一方で、現地を歩くと、路地、市場、屋台、住まいが結びつき、人びとの仕事や助け合いを支える生活の知恵も見えてきます。本授業では、私がタイで約2年間暮らしながら調査してきたバンコクのクロントイ・スラムを事例に、スラムを「なくすべき場所」か「守るべき場所」かという二択ではなく、どのように住環境を改善できるのかを一緒に考えます。	特になし
2067B 人間・環境学 研究科	一皿のごはんから考えるアジアの都市 みなさんが食べるおにぎりやカレー、レストランの料理は、どこから来て、誰の手を通して目の前に届いているのでしょうか。本授業では、私がタイで約2年間生活し、現地を歩きながら調査してきたバンコクの市場や屋台、スラムの路地を事例に、一皿の料理が食卓に届くまでの道のりをたどります。食材を運ぶ人、売る人、調理する人、路上で働く人、家族や近所で分け合う人など、食を支える多様な人びとに注目します。身近な「食」を追いかけることで、観光では見えないアジア都市の生活、労働、建築空間の使われ方を一緒に考えます。	特になし
2068A 人間・環境学 研究科	なぜそこに集まるのか？—「通学」からみえる、都市のすがた— 生徒の皆さんが、毎日何気なくやっている「通学」。ありふれた行動なので、特別意識したことは無いかもしれません。ですが、少し考えてみましょう。皆さんはどこから、どうやって通学していますか？ 実はこの問い、皆さんが暮らす町の特徴を知る上で、重要な手がかりなのです。特に高校生は、「自分で車の運転ができない一方、小中学生よりも行動範囲がぐっと広がる」という点で、都市で生活する人の中でも注目すべき存在です。そこで私のお話では、高校生の通学を切り口に、都市に「なぜ集まるのか？」という謎を、皆さんと一緒に考えます。毎日の通学が、少し違って見えるかもしれません。	× 10月以降の毎週火曜午後 × 8月24日 × 9月11日
2068B 人間・環境学 研究科	集う都市、つながる都市—近代からたどる、都市への移動— 生徒の皆さんは、恐らく都市で生活している人が多いのではないのでしょうか。世界人口の約45%が都市で生活している現代は、まさに都市の時代です。しかし、今のように多くの人が都市に集まり、都市の会社や学校に通うようになったのは、実はそれほど古いことではありません。そこで私のお話では、皆さんの日々の通学を含め、都市を取り巻く人の動きを、近代からみていきます。都市の性質や都市間のつながりはどう変わってきたのか、その背景には何があったのかを、皆さんと一緒に考えます。皆さんの都市に関する「当たり前」が、少し変わるかもしれません。	
2069A 人間・環境学 研究科	古文書と地図から江戸時代の庶民を追跡する 江戸時代の農村や都市というと、どのようなイメージを持っていますか？ 百姓と町人の住む場所は確かに離れていましたが、特産品や生活物資のやりとりを通じて、農村と都市は密接に関わっていました。この授業では編織物業が発展した産地に残された古文書を読みながら、百姓や町人が関わった事件の過程を地図上で追っていきます。古文書に書かれていることと書かれていないことについて知り、古文書の内容から何が分かるかを考えることで、江戸時代の産業や商業はどのように行われていたか、社会はどのように運営されていたか、その一面を体験します。百姓と町人の暮らしに触れることで、有名人の登場しない歴史の面白さをお伝えします。	× 毎週火・金 × 11月9～13日
2069B 人間・環境学 研究科	江戸時代の京都へ買い物に行こう 江戸時代の買い物というと、どのようなイメージを持っていますか？ 庶民はメディアを通じて商品やお店についての情報を手に入れ、買い物に利用しました。この授業では江戸時代の京都で刊行されたショッピングガイド（『買物案内』）を使って、当時の商業や消費の様子を探っていきます。『買物案内』に書かれた内容を読み、店舗の分布を可視化することによって、メディアの性格や都市京都の特徴を考え、歴史を地理から考えることの面白さをお伝えします。	
2070A 人間・環境学 研究科	「みかん」が繋いだ人と町…？ —日本から済州島に渡った「みかん」とその前後— 朝鮮半島の南にある島、済州。特産品はみかん、現地にはみかんチョコやみかんクッキーなど、みかんに関する土産品がたくさんあります。実はみかんの大規模栽培は1960年代に日本の「ある町」から苗木を送ったことから始まりました。みかんの寄贈をきっかけに、町同士は姉妹都市を締結した一町ではこのように歴史が語られますが、みかんを送ったのは60年前。日本と済州にはここ100年で築かれたもっと深い歴史がありました。私たちが暮らす社会には一つの事象への着目だけでは見えてこない、地域を越えた人びとの繋がりが実はたくさんあります。この授業では、人びとの暮らしに迫る文化人類学の観点から、私たちの社会にある普段は見えない地域を越えた繋がりに関して紹介します。	特になし
2070B 人間・環境学 研究科	「焼肉」の研究 —町の中から考える人びとの交流と繋がり— 皆さん、焼肉は好きですか？ この授業では、皆さんにも身近な「焼肉」をトピックに、国境を跨いだ人びとの交流の歴史を紐解きます。舞台となるのは日本の「ある町」。その町は「焼肉の町」と呼ばれ、焼肉屋さんがたくさんあることで知られています。その理由は「と殺場が近くにあり、新鮮なお肉がすぐに手に入るから」と説明されてきました。でもと殺場は全国各地にあるにも関わらず、何故その町にだけ際立って焼肉屋さんがあるのか…町の歴史を紐解いてみると、国境を跨いだ人びとの交流の歴史が見えてきました。身近にある風景から、人びとに知られていない事象を紐解いていく—そんな「探検」ができる文化人類学の視点から、身近な場所を「フィールド」に変えるヒントをお伝えします。	特になし

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
2071A 人間・環境学 研究科	心理学の研究法 ～質問紙の開発過程～ 心理学では様々な研究方法が用いられており、大まかには実験的研究と観察的研究に、さらに後者の観察的研究は質問紙（アンケート）調査、行動観察、心理検査、面接などに分類されます。実際の研究では目的に応じて複数の手法を組み合わせた調査が行われることが多いのですが、本授業では多くの方が一度は参加者として関わったことが多くであろう質問紙を取り上げ、時間の許す範囲でみなさんと一緒に（架空の）簡便なアンケートを一つ作成してみようと思います。このような作業を通して、調査する側が一連の作業でどのような工夫や配慮をしているのかを知り、人の心を探求することに興味を抱きかけられたいと考えています。	× 10～12月の毎週月・水
2071B 人間・環境学 研究科	人に自由意志はあるのか？ ～Libetの実験より～ 昨今の心理学/認知神経科学では、脳機能解析技術の進歩に伴い様々なテーマで研究が行われています。今回はその中から1970年代以降にB. Libetが行った有名な実験をわかりやすく説明します。人はみな自分の自由意志にもついて行動していると感じていますが、Libetの実験結果はそのような常識に疑問を投げかけました。それから約半世紀を経た現在、さらなる科学の発展もあってLibetが導いた結論に対しては様々な賛否が寄せられましたが、当時としては画期的な実験でした。たまたま私は大学の授業で初めてこの内容を知り、探求意欲が強く喚起されました。この話を通じて、みなさんがこれまで知らなかった分野、特に人の心に興味を抱く機会になればと考えています。	
2172A エネルギー科学 研究科	木から石油を作る？ -木質バイオマス変換の最前線- 自動車や飛行機燃料、電気、衣類、プラスチック - 私たちの暮らしは、石油などの化石資源に支えられています。一方で、化石資源の使用は大気中CO ₂ の増加を招き、地球温暖化の大きな原因にもなっています。そんな中、植物はCO ₂ を排出しても、育つ過程で同じだけのCO ₂ を吸収するため、「カーボンニュートラルな資源」として注目されています。実は日本は、国土の約3分の2が森林という「植物資源大国」。身近にある豊かな資源から「石油の代わり」が作れたら…そんな夢のような話に挑んでいる研究があります。この授業では、森の恵みをエネルギーに変える研究の最前線をご紹介します。	× 9月7～11日 × 10月26～28日
2172B エネルギー科学 研究科	なぜカーボンニュートラルは難しいのか？ -エネルギー科学から考える脱炭素- 「2050年カーボンニュートラル」この言葉を聞いたことがある人も多いでしょう。カーボンニュートラルとは、排出されるCO ₂ と吸収されるCO ₂ の量を等しくし、実質的にCO ₂ 排出をゼロにする考えです。その実現には、石油などの化石資源から、太陽光や風力などの再生可能エネルギーへと転換していく必要があります。しかし、これらの多くは「電気」として利用されるため、「燃料」や化学製品の「材料」としても使われる化石資源を完全に置き換えるのは困難です。そこで注目されているのが、エネルギーを燃料や材料といった「物質」に変換して利用する考えです。本授業では、なぜカーボンニュートラルが難しいのかを考え、その解決に向けた研究について紹介します。	
2173A エネルギー科学 研究科	水から水素をつくる化学～水素社会を支える電気化学～ 皆さんは「水素社会」という言葉を聞いたことはありますか？水素社会とは、カーボンニュートラルな社会を実現するためにエネルギー源に水素を活用する構想のことです。水素社会を実現するためには水から効率よく水素をつくる技術の開発が欠かせません。その技術のうち中学理科でも習う水の電気分解が注目されています。しかし、水素を効率よく作るためには、実は酸素を効率よく作らなければなりません。これは、水を分解する際に「酸素をつくる反応」が大きなエネルギーロスの原因となるためです。本授業では、高校化学で学ぶ電気分解や酸化還元反応をもとに、水の電気分解の詳しい仕組みを解説します。また、水素製造を支える触媒・材料研究を紹介します。	× 毎週月曜
2173B エネルギー科学 研究科	フッ素と電気化学～エネルギーと材料を支える化学～ 皆さんは「フッ素」と聞いて何を思い浮かべますか？実はフッ素は、歯磨き粉やフライパンだけでなく、電池や半導体など最先端技術にも使われている重要な元素です。一方で、近年ではPFASといったフッ素化合物が環境問題として注視されています。本授業では、高校化学で学ぶ酸化還元反応やイオン、電気分解をもとに、フッ素と電気化学の関わりについて紹介します。また、電池やエネルギー材料を支えるフッ素材料の研究を通して、化学が未来の技術にどのように活用されているのかを解説するとともに、PFASなどの環境問題にも触れ、化学技術との関わりについて考えます。	
2174A エネルギー科学 研究科	病気を防ぐ「小さな分子」の設計 糖尿病、がん、認知症などの病気には、体内の酵素やシグナル伝達の異常が深く関わっています。本講義では、植物由来成分をヒントに、病気に関わる酵素の働きを調節する「小さな分子」をどのように設計するのかを紹介します。薬が効く仕組み、化学構造の少しの違いが作用を変える理由、そして創薬研究が社会課題の解決にどうつながるのかを、高校生にも分かりやすく解説します。	特になし
2174B エネルギー科学 研究科	がんを防ぐ薬はどう作られるのか がんの発生や進行には、細胞の中で働く酵素やシグナル伝達の異常が関わっています。本講義では、「小さな分子」を設計して、がんに関わる酵素の働きを調節する創薬研究を紹介します。特に、CYP1B1やNotumという病気に関係するタンパク質を例に、化学構造のわずかな違いが薬の効き方や安全性を大きく変えることを解説します。薬づくりを通して、がん予防や個別化医療などの社会課題を考える授業です。	
2275A アジア・アフリカ 地域研究研究科	「幸せの国」ブータンで考える農村の未来 農村の過疎化は日本だけの問題ではありません。今やアジアの多くの国で発生しているグローバル問題です。「幸せの国」として知られるブータンでも、近年農村の過疎化が進んでいます。私は延べ二年近くブータンの村に滞在し、農村の課題や未来について現地の人々と考え、活動してきました。授業では、ブータンでの経験談や、現地で取り組んできた国際協力の取り組みについて紹介し、現地に滞在して社会を知る「フィールドワーク」の面白さや意義について考えます。国際協力や海外研究に興味がある高校生だけでなく、日本の地域活性化や、「フィールドワーク」全般に関心をもつ生徒にとっても進路選択の参考になればと思います。	特になし
2275B アジア・アフリカ 地域研究研究科	ブータンの小さな村で「教育」を考える 私たちはなぜ学ぶのでしょうか。教育は誰のため、何のためにあるのでしょうか。教育を受けることは、「幸せ」につながるのでしょうか。私は「幸せの国」として知られるブータンに延べ二年近く滞在し、小さな小学校で「フィールドワーク」をしています。授業では、ヒマラヤ山脈に位置する小さな村の学校で講師自身が撮影した写真や動画を紹介し、日本の教育との違いを考えます。日本からブータンに対して行われている、教育分野での国際協力の実際も紹介し、日本とのつながりも考えます。「大学での研究」や「海外」について知る機会になるのはもちろん、高校生にとって当たり前の「学ぶ」喜びを捉え直す機会にもなればと思います。	
2276A アジア・アフリカ 地域研究研究科	コーヒーでつながる世界：タイ北部の少数民族 カフェで飲む一杯のコーヒー。その豆がどこから来て、どんな人が作っているかを考えたことはありますか。本授業では、タイ北部の山で暮らす少数民族とコーヒーの関係を見ていきます。かつて彼らは、国の政策の中で「山地民」とひとまとめにされ、外から決められたイメージで語られてきました。しかし今、コーヒーを通して、自分たちの文化や歴史を伝える動きが生まれています。コーヒーは単なる商品ではなく、人と人の関係や「自分たちは何者か」という認識を変えていくものでもあります。身近な飲み物から、世界の見え方が少し変わる体験をしてみませんか。	× 毎週水曜 × 12月1～18日
2276B アジア・アフリカ 地域研究研究科	日常と非日常のはざまを生きる：観光と嗜好品 旅行に行ったり、カフェで一息ついたり、ヨガで体を整えたり。こうした「ちょっと特別な時間」は、私たちの日常とどのようにつながっているのでしょうか。本授業では、観光や嗜好品といった身近な体験を手がかりに、「日常と非日常の関係」を考えます。実は非日常は、日常から切り離されたものではなく、日々を生きる力を支える重要な役割を持っています。そしてその裏側には、それを支える人々の仕事や文化があります。講義では、講師自身の海外経験やキャリアの選択をもとに、なぜ人は非日常を求めるのか、そしてそれがどのように社会と結びついているのかを一緒に考えていきます。	

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
2277A アジア・アフリカ 地域研究研究科	民族はどのようにつくられる？-マレーシアから考える 現代社会では、人々を「○○人」という民族的アイデンティティによって分類することは広く行われており、異なる集団間の対立はしばしば民族紛争として語られます。しかし、「民族」というカテゴリーは、生まれつき自明に存在するものではなく、さまざまな歴史的・政治的・社会的文脈の中で形づくられてきたものでもあり、そうした成り立ちを理解しなければ、対立の背景や本質が見えてこない場合もあります。本授業では、多民族国家であるマレーシアを事例に、「マレー人」という民族カテゴリーがどのように成立し、社会の中で認識されてきたのかを考えます。日本社会では普段意識されにくい「民族」とは何か」という問いについて、マレーシアを事例と一緒に考えてみましょう。	× 毎週水曜 × 9月14日～10月17日 × 12月1～15日
2277B アジア・アフリカ 地域研究研究科	海を越えた商人たちを追いかけて-交易と移動の歴史から現代を考える 現代は「グローバル化の時代」と呼ばれ、交通や通信技術の発展により、人・モノ・カネ・情報の移動はますます活発になっています。しかし、こうした移動は決して現代に特有の現象ではなく、特に海を越えて活動した商人たちは、古くから地域と地域を結ぶ広域的なネットワークを築いてきました。そして、そうした海を跨ぐ人々の移動や交易によるつながりは、形を変えて現代にも続いています。本授業では、私がフィールドワークを行ってきたベンガル湾海地域を事例に、歴史的な人の移動によって生まれ、今にも続いている地域間のつながりについて考えます。私の調査経験も交えながら、海を跨ぐ人々の移動の歴史から現代社会を見つめ直す面白さを、一緒に考えてみたいと思います。	特になし
2378A 情報学研究科	「見える」ことの神秘 私は、人生の途中で視聴覚に障がいを得て、人間の感覚・脳・心のメカニズムを理解したいと願うようになりました。以来、感覚、感情、行動、そしてAIの研究に取り組んでいます。この授業では、視覚に焦点を当て、「見える」ことの神秘について解説します。まず、私たちは世界を「ありのまま」に見ていると思っていますが、実はそんなことはなく、私たちの脳の「クセ」によって少し変わった世界を見えています。その「クセ」の背後にある、脳のなかの視覚情報処理を担う構造・機能について説明します。この授業を通して、「見える」ことの不思議さ・素晴らしさ、そしてその神秘に迫る研究の面白さを感じていただけたらと願っています。	特になし
2378B 情報学研究科	高校では学ぶことのない「心理学」に触れる 私は「心理情報学」を研究しています。元々は物理学を専攻していましたが、私自身が難病のために視覚障害者になって、モノの原理だけでなく人の「ココロ」の原理も理解したい、という想いを抱いて社会人となってから心理学を学ぶようになりました。「心理学」と言ってもその研究対象は広く、感覚・感情・社会性・集団や組織など人間の活動の多くの分野に関連した、興味深いトピックスがたくさん含まれています。本講義では、心理学の研究へ導かれた私の半生をご紹介します。社会人を経たからのリスケリングとしての大学進学や、高校生の皆さんが学んでおられる諸科目が大学での学習・研究にどう役立つのか、心理学研究を事例にお話します。	特になし
2379A 情報学研究科	小さな変化から回復の手がかりを探す けがなどで体の動きを支える仕組みが傷つくと、回復していく過程を丁寧に見守ることが大切になります。見た目には大きな動きがなくても、本人が「少し力を入れようとした時、体の中には小さなサインが出ているかもしれません。この授業では、医療の現場で回復をどう確かめるのかを入口に、目で見ただけでは気づきにくい変化を、体に貼る道具を使って調べる研究を紹介します。数字として表れた変化を、体の状態と照らし合わせながら丁寧に読み解くことが大切です。記録にはゆれや偶然の変化も含まれるため、体の変化としてどこまで読めるのかを慎重に考える必要があります。病気がけがを「治す」だけでなく、回復の過程を支える医療についてお伝えします。	× 毎週水曜
2379B 情報学研究科	体の電気信号をデータで読む 病院で筋肉の状態を調べる方法には、針を使う検査もあります。一方で、スマホの歩数計やスマートウォッチの心拍計のように、センサーを使って体の変化を記録する方法も身近になっています。この授業では、体への負担を少なくしながら回復していく過程をより細かく知るために、人の体をどう安全に測り、医療に役立てようとしているのかを紹介します。数字やグラフとして見た変化を、体の状態と結びつけて考えることが大切です。まわりのゆれ、記録のくせ、偶然の変化を区別しながら、確かな手がかりを探します。医療でデータを使う時には、計算の力だけでなく、人の体を理解する視点も欠かせません。医療と工学が出会う場所で、体を測る道具が人を支える可能性についてお伝えします。	× 毎週水曜
2480A 生命科学研究科	最先端顕微鏡で見る！ウイルスの形と生き残り戦略 目には見えない小さなウイルスは、どのような姿で、どのように生きているのか？本授業では、インフルエンザウイルスを主な対象に、その生存戦略を解明する研究を紹介します。ウイルスそのものを見る「電子顕微鏡」、もっと細かい形を見る「クライオ電子顕微鏡」、分子を針でなぞってその動きをライブ映像で見る「高速原子間顕微鏡」など、様々な最先端顕微鏡を駆使して見えてきたのは、不思議で美しいウイルスの生活でした。ウイルスを「作る」「細胞に感染させて増やす」「中身を綺麗に取り出す」「顕微鏡で見る」といった実験プロセスを通じて、感染症制御に挑むウイルス学の面白さを、実際の写真や動画を交えてお話します。	× 10月13日 × 10月27日 × 11月10日 × 11月24日
2480B 生命科学研究科	「見切り発車」から始まる、ゆるい進路選択 「将来の夢は？」「やりたいことは？」そう聞かれて困ったことはありませんか？私は、最初から現在の専攻を目指していたわけではありません。学部選びから大学院進学に至るまで、私の進路選択は「なんとなく」「見切り発車」の連続でした。とりえず進んでみた先で、自分の苦手なことに気づいて立ち止まったり、自由にやらせてくれる大人たちに助けられたりしながら、今に至ります。本授業では、大した志はなかつたけど進学してみた大学院について、進路選択の裏側、研究室での毎日の生活、案外活用できる経済支援について紹介します。とりえず飛び込んでみて、嫌なら変えればよい。進路に悩む皆さんにとって、肩の力を抜いて自由に考えてみるきっかけになれば幸いです。	× 毎週月・火・木の いずれも午前
2481A 生命科学研究科	免疫をハックしろ！-次世代バイオ医薬の最前線- 免疫と聞くと、「はたらき細胞」を思い浮かべる方も多いでしょうか。作品の通り、私たちの体内には多様な細胞が協働し、健康な状態を保っています。しかし、時には病気になることも……。そんな時に私たちを支えるのが医療や医薬品です。近年、医薬品開発の中心は、従来の低分子医薬品から「バイオ医薬品」へと移りつつあります。特にがん治療では、より副作用が少なく効果が高い治療を目指して、体内の免疫システムを活用した新しい治療法が研究されています。本講義では、遺伝子改変によって作製されるCAR-T細胞や、免疫細胞の働きを引き出すCrunchタンパク質を題材に、最先端のバイオ医薬と未来のがん治療について考えます。	× 毎週月・火・木の いずれも午前
2481B 生命科学研究科	タンパク質をデザインしろ！-分子設計が切り拓く未来- 私たちの体の細胞の中では、タンパク質が「ナノサイズの機械」として働いています。酸素を運び、食べ物を分解し、病原体と戦う——生命活動の多くはタンパク質によって支えられています。近年、遺伝子配列を改変することで、自然界には存在しない新しい機能を持つタンパク質を人工的に設計する研究が急速に進んでいます。かつては実験を繰り返しながら偶然に頼っていたタンパク質開発も、今やAIやコンピューターシミュレーションを活用し、狙った機能を持つ分子を「デザイン」する時代に。本講義では、タンパク質構造予測を用いた人工酵素や創薬技術を題材に、生命工学が切り拓く未来について考えます。	× 毎週月曜
2482A 生命科学研究科	大学院生の研究を体験！がんの新しい治療法を創ろう 大学院生は何をしている？ 研究はどう進むの？ 普段は見えない研究の世界を、私が実際に取り組んでいるテーマ「がんの新しい治療法を創る」を通して紹介します。高校生の皆さんには私の「助手」として、問いを立て、仮説を考え、実験結果から次の作戦を議論してもらいます。最先端の生命科学に触れながら、正解のない問いに挑む研究者の思考法を体験できる授業です。研究の面白さを一緒に味わいましょう。ディスカッション形式のため、クラス単位での受講を推奨します。	× 毎週月曜
2482B 生命科学研究科	がんは淘汰する時代へ 最先端のがん治療法の裏側！ 日本人の死因第1位はがんです。私たちは、がんに怯え続けるしかないのでしょうか。いえ、今、がんを「できてから治す」だけでなく、「早い段階で防ぐ」時代へと研究は進みつつあります。私たちの体には、がんの原因となる変異細胞を見つけ出し、排除する仕組みが備わっています。本授業では、細胞同士が「競争」を利用してがんを防ぐ新しい予防戦略を紹介します。最新の研究データをもとに、がんに立ち向かう生命科学の最前線と一緒にのぞいてみましょう。講義形式のため、受講人数に制限はありません。	× 毎週月曜

2026年度 京都大学 高大連携 学びコーディネーター 提供授業一覧 【講師：77名 / 全 154テーマ】

※注※ 必ず「× 実施不可日」をご確認ください。

授業番号・所属	授業テーマ・内容	× 実施不可日
2683A 地球環境学舎	日本の山は草だらけだった!?有機農法と山の関係 日本は森林大国、山に木があるのは当たり前、と思いませんか。実は、山全体が木に覆われている風景は、この一世紀くらいのもので、今のように、化学肥料や農業機械がなかった時代、草や木の枝葉は、有機肥料としてとても貴重で、大切なものでした。そして、人力以外には馬や牛が、農耕に当たり前に使われていたのです。その家畜の餌用と、肥料のために、今よりもずっと多くの草地在っていました。ひと昔前のことだけれど、とても持続可能が高く、環境配慮型で自然と共生していた暮らし、それが今の社会にどう生かせるかを考えます。	特になし
2683B 地球環境学舎	馬(ウマ)が活躍する農林業—お馬さんがSDGsと地球環境問題に貢献!? 今から60年くらい前まで、日本の農山村では、馬が荷物をひき、丸太を引っ張り、田畑を耕していたことを知っていますか。乗馬用ではなく、馬は生活のパートナーだったのです。馬は草を食べるので化石燃料は消費せず、馬糞は良質な肥料になり、排気ガスも出しません。林業では、道の作れないようなところにも行きます。いま、こうした馬の特徴が、現代社会の求める環境に配慮した取り組みに合うものとして、注目されています。馬がどんなシーンで活躍するのか、農山村の抱える課題と合わせて検討します。	特になし
2784A 経営管理大学院	経営科学における因果推論：計量経済学から機械学習まで 経営科学研究の方向性として、量的データにもとづく定量的研究と、インタビューやケーススタディを通じた定性的研究の2種類がありますが、本授業ではそもそも経営科学とは何かについて簡単に解説した後、定量的研究に焦点を当てます。具体的には、定量分析の代表的な手法である計量経済学を用いた因果推論と、近年注目度が高まっている機械学習を用いた因果推論について、最新の研究結果を交えながら説明します。商品の価格設定や交通事故の予測など、みなさんの日常生活に密接に関係している因果推論について、何が行われているのか、その結果何が見えるのかをわかりやすく伝えたいと思います。	特になし
2784B 経営管理大学院	社会人大学院生とは何か? 私は一度就職し社会に出てから大学院に入学生した、いわゆる社会人大学院生です。国内には約6万人の社会人大学院生がいると言われています。もちろん、京都大学にも多くの社会人が学生として在籍しており、社会人向けの専攻や入試も存在します。彼ら/彼女らはなぜ、何のため、どのように大学院へ通うのでしょうか。本授業では、社会人大学院生の実態について、私自身の体験談を交えながらざっばらんに話します。人生はいい会社に就職したら終わりではありません。社会に出てからの多様なキャリアデザインについて考えてみましょう。	特になし
2785A 経営管理大学院	データサイエンスで創る未来の社会インフラ 本授業では、社会インフラの課題解決の事例やキャリアモデルを紹介することで、実社会への関心を深めるとともに、知的好奇心とデータにもとづいた論理的思考力を高めることを目的とします。数字や画像データを使って、そこから有益な情報や知見を導き出し、未来予測や社会課題を解決する「データサイエンス」について解説します。データサイエンスは、電力や水道、交通、通信、病院など、私たちの生活を支える社会インフラにおいても、ビジネス戦略の立案や製品開発、顧客創造、生産性向上など、多岐にわたる分野で活用されています。これらの分野で、どのようなデータが必要でどう活用すれば解決できるかを解説します。	特になし
2785B 経営管理大学院	アントレプレナーシップ入門～ビジネスモデル創造～ 本授業では、課題の発見や課題解決策を考え、そこからビジネスモデルを創造することで、自身の将来のキャリアデザインや社会貢献ビジョンを考えることを目的とします。ベンチャー企業の起業家のアントレプレナーシップ（起業家精神）や起業プロセス、起業マインド、ビジネスモデルを新たに創造するための方法論を解説します。ビジネスモデルとは、誰にどのような価値をどのようにして提供するかということです。探究学習やアイデアをビジネスモデルに変える楽しさを知っていただき、将来「自分で未来を切り拓く側」になるための思考法を知ること、キャリアデザインや社会貢献への視点を広げていただきます。	特になし
3386A 生存圏研究所	植物が有用成分をつくるしくみ～基礎から応用まで～ 2015年、マリア治療薬アルテミシリンの発見がノーベル生理学・医学賞を受賞しました。アルテミシリンはクソニンジンという植物が作りだす成分です。実は、医療現場で使用される医薬品の約70%は、植物がつくる成分に着想を得ているとされています。このように私たちの生活に欠かせない植物由来の成分ですが、そもそもなぜ植物はこのような成分をつくるのでしょうか？ また、これらの成分は植物自身にも「効く」のでしょうか。植物の成分研究の面白さに惹かれて薬学部から農学研究科に進学し、基礎から応用まで経験してきたコーディネーターが、自身のキャリアにも触れながら解説します。参加者が主体的に考え発言する機会を取り入れ、双方向に学びを深めることを目指します。	× 毎週月・火 × 8月24日～9月6日
3386B 生存圏研究所	薬と毒はなにが違う?～生物が作りだす多様な物質に迫る～ 「すべてのものは毒である」とは中世ヨーロッパの医師・錬金術師パラケルススの言葉ですが、その一部は薬としても利用されています。では、何が毒と薬を分けるのでしょうか？ ピンクリスチン、ポツリヌス、ヘキシリン……。毒と薬の間を行き来するこれらの成分の名前を耳にする機会があるのではないかと思います。このような生物が作りだす毒および薬を中心に、多様な化学構造や効果、さらにそれらが私たちの手に届くまでの研究の歴史を紹介いたします。大学院で植物の有用成分を研究する傍ら、現役薬剤師でもあるコーディネーターが、化学・生物・数学など高校生にも親しみやすい視点から解説します。クイズやディスカッションを取り入れ、楽しみながら参加していただくことを目指します。	× 9月・10月
3987A 東南アジア地域 研究研究所	ごはんの食べ方で文化がわかる?—ウイグルの暮らしをのぞいてみよう 中国の西北にある新疆ウイグル自治区には、ウイグル族という人びとが暮らしています。みなさんは「家で食べる」「家で過ごす」「人をもてなす」と聞いて、どんな様子を思い浮かべますか？ 実は、主食（米か麦か）、皿の使い方、食事の回数、誰と食べるか、来訪者を食事に招くのかといった日常の違いから、その社会の考え方が見えてきます。本授業では、ウイグル族の家庭での食事や空間の使い方を手ぐらかりに、日本と比べながら、「家」とはどのような場所かを考えます。身近な生活から文化の面白さに迫ります。	× 9月・10月
3987B 東南アジア地域 研究研究所	放したヒツジはなぜ帰ってくるの?—パキスタン山岳地帯に学ぶ、人と動物の関係— 家畜を外に放したら、どうやってまた集めるのでしょうか。迷子にならないのでしょうか。パキスタンの山岳地帯で暮らすワヒの人びとは、ウシや羊・ヤギを飼いなから生活しています。彼らは家畜を毎日外に放ち、自然に生えている草を食べさせます。それでも群れは再び家に戻ってきます。なぜそんなことが可能なのでしょう。本授業では、人びとのふるまいや言葉づかい、家畜の見分け方に注目し、日本と比べながら、自ら動き判断する動物とともに生きる暮らしと、その世界観の違いに迫ります。	× 9月・10月